添　付　資　料

１．聞き取り調査記録

1．聞き取り調査記録

聞取り調査 1(場所:Konkyan)

興旺(シンワン)区長聞取り
(2004 年 2 月 11 日)

1 区長の身上等

A　氏名年齢等

氏名:李老保(リーラオバオ)、年齢:46 歳、教育:小学校卒業

B　区長就任の経緯

コーカン自治区から任命された形であるが、郷長の間で副郷長に選出され、前郷長が辞めたことに伴い郷長に昇格。(その後の聞取りよりの補足も含む)

C　生業

大規模な農畜産業ほか(水稲、トウモロコシ、くるみ・みかん・栗等の果実、葉から油脂をとる樹木の栽培、香辛料作物、茶、養鶏、畜牛、ヤギ畜養、養豚ほか)

2 興旺(シンワン)区の一般的状況

A　人口・世帯数・村数等

村数:67 行政村(100 数 10 人～800 人程度の規模)
世帯数:3,350
人口:22,600 人(男女比率はほぼ半々であるが、女性のほうが若干多い)
民族構成:　コーカン族(70%)、パラウン族(27～8%)、残りは多い順にミャオ族、リス族、その他

B　区内及び特区内での町と関係

区内の町は、コンジャン(主要)、シンピンガイ(2 番目)、ナンコウホー(3 番目)の 3 つ
コンジャンまで一番遠い村は 3 時間を要する(徒歩のみ)
コーカンの中心都市であるラオカイまでは 40 マイルであるが、バスの場合乾期の道が悪い場合で 6 時間、雨期で 2 日、料金は 30 元(小型バスの場合乾期で 4 時間ちょっとで、料金は 50～60 元)

C　耕地・作物

栽培面積の広い順に、トウモロコシ、水稲、陸稲となっている
茶も広く栽培されているが、3～4 斤(1.5～2kg)の製品で 3 元と、かなり安い
みかんやその他の果樹、香辛料については植え始めたばかりである。
耕作地については、開拓した人が所有することとなる。しかしながら、開拓可能な空き地がほとんど無いので、売買も始まっている。
多少、規制して保全している土地はあるが、使える土地はほとんど勝手に開拓している状態である。
以前は、ケシ専用の畑があった。しかし現在は、70～80%がトウモロコシに転作している。

D　家畜

区内では一般的に、豚、牛(1～9 頭)、鶏、ヤギ(ほんの少しで、区長が飼育している 100 頭がほぼすべて)が飼われているが、その数は少なく、放し飼いが一般的である。(その後の現地調査で判明したこととして、犬も食用も兼ねて飼われていた)

また、耕起用の水牛、輸送用のラバ(少数の馬も含む。また牛は主として運搬用)も飼われていて、これらはあまり貧しくなければ所有することが出来るものである。

E　農具

鎌、山刀、鍬、耕起用犂、斧、(後の調査でこれに鉈も加わる)は、農家の必須農具となっている。このうち、斧を除く刃物類は、地元の鍛冶屋で製造(加工)が可能である。

F　住居

住まい及び土地は個人所有となっている

3 公共の住民活動等

A　生活環境の改善等

大きな道路の建設は、国境省(ラオカイ－コンジャン)とコーカン自治区(コンジャン－ホンエン)が実施、修理もそれぞれ行っている。

村の道については 9～10 月に村人が自分たちで実施している。その場合、各戸が 1 人労働者を出している。
学校建設は、みんなでお金を集めて実施する。
基本的に、住民の共同活動はこれだけであり、水は湧き水を使っている。
ただし、コンジャンでは遠くの水源(それぞれ国境省・コーカン自治区の管轄)から導管を使って水場に引いて使っている。

B　　祭り等の共同行事

祭りは、正月(旧暦)の春節と盂蘭盆(旧暦 7 月 15 日)が大きなものである。しかしながら、共同行事としての祭り事・祝い事等はまったく無い。

4 生活必需品等の入手

A　　食料品

足りない場合には、米を買っている。全体として 4～5 か月分しかない。
また米が足りない場合には、トウモロコシも食用にしている。さらに、サツマイモ、芭蕉の仮茎その他、自分たちで植えたものだけではなく、食べられるものは何でも食べている。
そばも食べており、蒸してパンのようにしたものはよい方の食品である。

B　　衣料品・住居

パラウン人は、布地から作る人もおり、基本的に手作りである。
コーカンの場合は、製品を購入するほか、布地を買って自分で縫う場合も多い。
一般的には、地元のものを使って作っている。

C　　医療・教育・娯楽等

医療費は、お金がかかる。
教育に関しては、先生の給料分を就学児の親が負担している。
農民は浪費しないので、お菓子を買うぐらいで、お酒はほとんど飲まない。

5 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A　　現金収入

ケシ栽培がなくなって以降は、住民(ほとんどが農民)の現金収入がほとんどなくなっている。現金収入の源となるのは茶(前述のように値段が安い)、山の樹皮・根・草等(薬効がある)の採集となっている。

また、病気になった場合には鶏・豚・牛など自家消費や輸送用の家畜を売却するようにもなっている。家畜もいない場合には、病気になってもお金が無いために診療を受けることが出来ずに死ぬ人も少なく無い状況にある。

借金についても親戚ぐらいしか、頼る先が無いので、貧しいものにはほとんどその機会も無い。

総収入の変化としては、ケシ栽培があった間は年間 10,000 元位あった収入源が数 100 元に減っているような状況である。

この地区の人々は、出稼ぎに行くところも無い。これは、農作業しかできず、コーカン語しか知らないのでミャンマーでも仕事を貰うことができない。70～80%は文盲である。

ケシの賃仕事をしていた人は、ここ 2 年ぐらいは、野生のものを掘って現金収入を得ていたが、そろそろ枯渇してきているようなので、今はどうなっているかもわからない状況にある。

B　　食料事情

現金収入が激減したため、ご飯も食べられなくなっている状態である。貧しい家では、木の皮(金柑状の緑色の実ができる木で雨期には樹皮が柔らかくなる:現地呼称は橄欖果)も食べているし、芭蕉の仮茎(家畜の飼料)、野生の芋なども食べている。

C　　健康状態等

区内 2 地区(Phar Mar Chan, Lan Pi Lin)とその隣接地区(Ai Pan)の 3 つの地区で大量死が昨年の 9～10 月に発生した。栄養状態が悪くなって抵抗力が落ちたことによるものと思われるが、直接の死因はマラリア 80 名、栄養失調 20 名(こちらの方は腸炎ということになっている模様)である。

コーカン自治区に報告したことにより、コーカン自治区から資金を得て油脂を住民に配布することが出来、コーカン自治区及びミャンマー政府・中国政府より医師が派遣された。

就学児童数も、もともと少なかったものが、より減っている。政府は支援するといっているが、資金を出してくれないので、もともと少ない学校が閉鎖され始めている。

医療クリニックにも少なく、個人開業のものであるため、お金が無い人々は診てもらいにも行けない状況になってい

る。

6 基準価格(現在と5年前)

A ディーゼル油(照明用):	4元 / lt	2元 / lt
B 米(最低価格米):	1.8元 / kg	1.8元 / kg
C 3元素肥料:	50元 / 40kg	40元 / 40kg
D 尿素:	80元 / 40kg	50元 / 40kg

(ただし現在、化学肥料は使われていない)

聞取り調査 2(場所:Sinpingai)

興旺区新華郷(シンホワシャン)郷長・副郷長聞取り
(2004 年 2 月 12 日)

1 郷長・副郷長の身上等

A 氏名年齢等

郷長氏名:李久和、年齢:45 歳、教育:3 年間小学校(大体読めるが、人が読めないような字しか書けない)

副郷長氏名:羅金富、年齢:41 歳、教育:書学校卒で以前(書記の前)は教師をしていた(読み書きがちゃんとできる)

B 郷長・副郷長就任の経緯

コーカン自治区から任命された形であるが、村長の間で副村長に選出され、前村長が辞めたことに伴い自動的に郷長に昇格。

副郷長は郷長の書記を勤めていて、村長たちが副郷長を選ぶときに村長ではなかったが選出された。

C 生業

郷長は、稲とトウモロコシと耕作していて、牛、豚、鶏を飼っている。特に現金収入は無い。

副郷長も同様。

D その他

郷長は、ラオカイに月に 2〜3 回は行っている。また、春節にはこま回し大会に出場するために行った。

2 新華郷の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

村数:22 カ村
世帯数:1,035
人口:7,700 人(男女比率はほぼ半々であるが、女性のほうが若干多い)
民族構成: コーカン族(900 戸程度)、パラウン族(100 戸余り)、ミャオ族(8 戸)、リス族(5 戸)
人口は増加傾向にある。(年間 20 数名の死亡に対して、出生が 40 数名)

B 識字率

大体 80%が文盲。読むだけの人が 20%で、書くことができるのは 1%。

C 郷内及び上の行政区の町との関係

郷内ではシンピンカイが主要な町で、その下のレベルではナンコウホー(さびれている)がある。シンピンカイとナンコウホーは、車の通れる道路は遠回りをしているが、徒歩ならば 30 分程度。シンピンカイから一番遠い村で、徒歩 3 時間程度。

上位の町はコンジャンで、一般的には病気のときに行くぐらいである。ほとんどは徒歩かヒッチハイクで行っている。

D 耕地・作物(シンピンガイ村)

シンピンガイの村の場合、水田の所有者は 35%のみ、65%は畑だけ。水田の場合、7.5kg(種籾で 1 ドン。1 ムー=0.75 エーカーに播種する分量)x 3(3 ドン)分の土地(約 2 エーカー)を持っているのが一般的。

去年の水稲の収穫は、140 ダ(1 ダ:75kg、10,500kg)通常は 1 ドン(7.5kg)程度(1 ムー)で 3 ダ(225kg)取れるところが 2 ダ(150kg)の収穫に終わった(1ha=15 ムー→1 ムー=6.67 アール、2 ムー=13.33 アール)。

陸稲は 130 ダ(9,750kg)、トウモロコシ 130 ダ(9,750kg)。自家消費用(菜物として食べる)の豆類も栽培。

日本ソバは 2 年やったが実がならない。

E 家畜
水牛、ヤギ、豚、鶏、ラバ、牛を飼っている。豚、鶏は貧しくても飼っている。輸送用に使うラバと牛は少ない。
家畜は減っていて、売って食料を買っている。

F 農具

基本的農具は、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ。

山刀と鉈は鍛冶屋でできるので、鉄(自動車のサスペンションの板バネや鍬の古くなった物)を鍛冶屋に持っていって作ってもらう。加工賃は山刀が 7〜8 元(市では 15 元)、鉈が 11〜12 元(市では 12〜20 元)。毎年作る。
それ以外は外から(ラオカイ経由)購入。

鍬:7～8 元(毎年購入)
犂:20 元余り(毎年購入)(牛につけて使用する物)
鎌:5～6 元(5 年に一度購入)
斧:20 元あるいは 10 数元(7～8 年に一度購入)

G 住居

基本的に私有。建物は、自分であるいは村人との助け合いで建築する。建物によっては大工を使うこともある。

3 学校・保健医療・水供給

A 学校

郷で 5 カ所。シンピンガイに中小学校(小学校から中学校教育までを実施)が 1 つあり、他の 4 カ所は小学校。ミャンマー小学校はファーマーチャン(Phar Mar Chan)にあり(建物は兼用)、先生の給与はミャンマー政府が出しているが、食事の面倒は村人が見ている(食べさせてあげている)。

学校の建物は、区政府の指導により、地元の人々が金を出して作った。お金のある人はお金を出し、お金の無い人は労働力を提供した。中小学校には、コーカン自治区も年 3,000 元程度のお金を出している。

先生の費用(小学校の先生が 300 元/月、中学校の先生が 600 元/月)は、自分たちでお金を出している。中小学校に小学校の先生が 3 人いる(中学の部は 1 人)のを除き、各校とも先生は 1 人ずつである。

先生の費用負担が学費となっており、通っている児童の親が負担する。小学生が 220 元/年、中学生 330 元/年(シンピンガイの小中学校の学費と思われる:学費は各村でそれぞれ決めている模様)。

B 保健医療

郷全体としては、シンピンガイに私営の診療所が 2 つあったが、1 つは医師が最近逝去し、閉鎖されている。医師は中国人。

診療費は無料で、薬のみに課金しており、医師は薬代だけで生計を立てている。薬代は一番安いもので 16 元。

そのほか、中国から来た漢方薬剤師が 1 人いる。

C 水供給(シンピンガイ中心)

郷全体としては、湧き水を使っているところが多い。

シンピンガイには、一つの水源から水を導管で 2 つ水槽に供給し、利用している。4 万元の建設費のうち2万元分は利用者(近隣の 50 戸:コーカン 30 戸・中国人 20 戸)が、負担している。負担額は、各戸 400 元で、支払えない世帯は労働力を提供している。残りの費用(金額としては半分以上)は興旺区長の李老保が個人的に負担した。

使用料金として、一戸当り 5 元/月支払っている。

4 公共の住民活動等

A 生活環境の改善等

シンピンガイでは、近隣道路の修理を行っており、お金か労働力(排水溝を掘るなど)の提供を行う。

B 祭り等の共同行事

特になし

ただし、コーカン全体の郷対抗のこま回し大会には出場している。この郷は 2 位になり、牛 1 頭と盾を貰った。1 等の賞品は水牛。3 等は小さい牛。

5 生活必需品等の入手

A 食料品

以前から食料は購入していた。しかし、現在は収入が減っているので、厳しい状況にある。

この辺りは土地が痩せていて、水も少ない。以前はケシ収穫時の労働で稼いでいた。場所は、モンコーとかコーカン内部。今は売り食い状態となっている。

人口は変わっていない。ただし、後に確認したところ、増加傾向にあることが判明。

B 衣料品・住居

自分は服も靴も買っているが、布を買って作るのが一般的である。サンダルを作る人がいる。

パラウン人は布から作る人もいるが、この辺りでは布は購入している。

家は、大工がいるので依頼するか共同作業で家を建てる。大工とはいっても立派な建物を建てられるわけではない。

C 農業生産投入・農耕具購入

肥料は購入していない。以前は購入したいたが、さほどの量ではなかった。購入先は、車を持っている人はラオカイ、そうでない人はシンピンガイ。ラオカイの方が値段が安い。

犂は毎年購入している。その原資は、米やトウモロコシ、鶏、芭蕉の仮茎、カンランの実、薬効のある樹皮や根等を市で売り、農具を購入する。米やトウモロコシは、自分の食べる分が足りなくても売る。

D その他

タバコ・照明器具燃料としてのディーゼルを購入している

タバコは安いので 1 箱 0.9 元。ディーゼルは 1 カ月 3 本必要で 4 元/本(1 本 1.5lt:ビール瓶なので実際は 700mlt 弱と思われる)。

6 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 現金収入

この辺りはケシの栽培に適していない(暑過ぎる)ので、自らケシ栽培をするということは無かった(高度の上の方の土地でもあまり収量が上がらないので作っていないようだったとのこと)。しかし以前は、自分たちもケシ畑に働きに行っていた。春の収穫期(1～3 月)。

現在では、賃仕事(労働)の口が無い。山で薬効のある樹皮や根を採集し、それを売ったりして食料を購入している。病気などである程度まとまった金が必要な場合には、家畜を売り払っている。

B 食料事情

5-A参照。

C 健康状態等

大量死が昨年の 9 月(陰暦)の終わりごろ発生した。

タンルウィン川のほとりのロンガンジャオ村では住民 190 人のうち 17 人、トンサン村では 330 人中 19 人、ライフースーでは 500 人中 8 人が死亡している。死者 44 名の内訳は、コーカン人が 20 名、パラウン人が 24 名となっている。

これまでには、このような大量死は無かった。通常は、年間 20 数名死亡している。大量死は、この通常の死亡者に上乗せされた数字となる。

これに対し、コーカン自治区が薬(点滴用・注射用の液体)を持ってきて、その投与により病人はみんな治癒し、それ以後、死者はでていない。

直接の死因は、ほとんどがマラリアということになっているが、基本的には栄養状態の悪化による体力の低下である。

パラウンについては、(人口比で考えると特に死亡者の率が高い点も踏まえ)家の下に牛を飼っているので、衛生状態が悪かったのではないか、と思う。

また、就学率は、2002 年の 50%弱から 2003 年には 20 数%に落ちている。

D 早急に解決すべき問題(重要度順)

食料、仕事、学校、医療

7 個人の生活状況

A 農耕の状況

水田の肥料はコンポストを使用する。コンポストは牛糞を使用。稲藁は牛のえさとしている。山の上の畑は、草を刈って焼いて、その灰を入れている。したがって、トウモロコシは灰を使うこととなる。

去年の水稲の収穫は、通常 7.5kg 程度(1 ムー)で 3 ダ取れるところが 2 ダの収穫に終わった(1ha=15 ムー→1 ムー=6.67 アール、2 ムー=13.33 アール)。

B 現金の支出入等

(5 を参照)

本日の手持ち現金は、100 元。家にはトウモロコシと米があるだけで、現金は無い。(副郷長は 2～3 元だけ。)

借金は、子供を学校に入れる時などに、親戚等からによるものに限られる。1 カ月程度で返済しなくてはならず、金額は 80～100 元程度。

C 家族及び穀物消費等

郷長

21 人家族(大人 10 人、子供 11 人)、1 日の消費穀物量:10kg、年間自給が可能。

副郷長

7 人家族(大人 2 人、子供 5 人)、1 日の消費米量:4kg、半年間は購入が必要。

8 日本ソバの栽培(郷レベル)

2000 年はカップ一杯ずつ配布したこともあり、全体にうまくいっていない。

2001 年には郷で 100 戸が耕作。肥料は、2 種類で 1 袋ずつに塩。

種子は郷に 18 袋(25kg 入)来て、5 カ村に配布した。種子の配布に当たっては、種が来てから郷長と副郷長に村長が集まり会議を開き、コーカン自治区の副長が来て説明をしたら希望者が多かったが、5 カ村に任せた。村での配布は各村長に任せた。(ちなみに郷長の村では割り当ては無かった。

ランピンリンの郷長は、2001 年に 6.5kg 撒いて 13kg の収穫。早くできるトウモロコシの後で植えたので、ちょっと播種が遅かったこともあり、霜害にあった。

副郷長は、配布の際にこぼれた種を集め、12kg 撒いてまったく収穫できなかった。開花期に大風が吹いたのが原因考えている。

それでも、ソバをやりたいという意欲はある。実施する際には技術を向上させ、注意を払うつもりである。当時の説明は簡単さを強調していた。(それゆえ甘く見ていたよう)

購入方法の文書はあったが、栽培方法については文書を配られた記憶が無い。

買取りの条件があれば、種と肥料がタダでなくても村人たちはやる気はあるだろうけど、金が無いので購入することは無理である。買上げ時に、種代と肥料代を差引くような条件ならば、やりたい者も多いと思うが、失敗したという実績があり、借金が残る可能性も否定できないので不安が強いだろう。

種と肥料がタダであれば、買取り価格の希望は特には無い。収穫後は村長にここまで持ってこさせる。ただし、9 カ村は道路が通じているが 12 カ村は通じていない。

地のソバは、蒸パンにして食べている。市の時に買うような食べ物である。コップ大で 1 個 0.5 元。ソバの専業農家はいるが、他地域である。

9 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	160 元 / 25lt	100 元 / 25lt
B 米(最低価格米):	2 元 / kg	2 元 / kg

聞取り調査 3(場所: Loukouchai)

興旺区民権郷老高寨(Loukouchai)村(Lan Pi Lin:蘭皮林近く)村人聞取り
(2004 年 2 月 12 日)

1 村人代表の身上等

A 氏名年齢等

不詳(集まってきた数人の村人のうちの 1 人から主に聴取)

B 生業

農業

2 Loukouchai 村の一般的状況

A 人口・世帯数

世帯数:100 余り
人口:730 人
民族構成:パラウン人のみ

B 識字率

ほぼ全部が文盲。大人で、学校に通った者はいない。

C 耕地・作物・家畜

水田を所有しているのが 30 戸で、水牛も所有している。残りは陸稲とトウモロコシを耕作している。家畜は、水牛(水田農家の一部)・豚・牛・鶏。

このほか、食糧事情が悪いにもかかわらず犬が多く飼われていたので、食用にするか尋ねたところ、「食用にする」の返事であった。その後、できる範囲で他の村でも確認したが、コーカンでは犬を食用にするのは一般的であった。

ケシは土地が合わないので、栽培していなかった。

D 農具

基本的農具は、山刀・鉈・鋤・鍬・鎌・斧の 6 つ。

E 住居

住居は自分たちで作っている。板も自分たちで製材。

3 学校・保健医療・水供給

A 学校

学校はない。村には仏教の礼拝所・集会広場があった。

B 水供給

水源がむらの傍に 2 つあり、通年利用可能。

4 公共の住民活動等

A 祭り等の共同行事

特になし。(仏教の宗教行事を除く)

5 生活必需品等の入手

A 食料品

主要聞取り対象者は、3 か月分の穀物しか収穫が無く、村内の 20 戸はまったく収穫が無かった。女性は、山で食料探しをしている。

Food for Work の土木作業で米をもらえて助かっている。10 日で 40kg の米を貰った。

山の薬効のある草の根は掘りつくしてしまっている。

B 衣料品・住居

すべて自給自足。布は、各家庭がそれぞれ麻(大麻か黄麻=ジュートかの確認が必要)の糸を使い、機織から自分でやって作っている。各戸でそれぞれ布を織れる。ただし、麻糸は購入する場合もある。(大麻は吸わない)

C 医療・教育・娯楽等

病気になったときには、シンピンガイの診療所に行く。費用は、豚や鶏を売却する。10 数元～20 元の出費は覚悟している。

D 農業生産投入・農耕具購入

家畜を所有している家は、糞を堆肥にして投入している。

鋤:毎年 5 つ購入、1 つ 10 元
山刀:毎年購入、15 元
鉈:毎年購入、20 元、小さいのは 15 元

収穫が無かった世帯も、種は必要に応じて、買ったり、人から貰ったりする。貰う場合には対価として労働力を提供する。ただし現況では、全然仕事が無いので、今年度は種を購入できないであろう。

E 現金収入の道

男は、開墾や薪取り等の出稼ぎによって、現金を得る。また、家畜の売り食いも行っている。豚 1 匹で 200～300 元(1 斤=500gで 5 元)。鶏は 1 羽 15 元。鶏は、病気がはやって死んでいる。

F その他

タバコ、塩と照明用ランプの燃料としてのディーゼルが必需品購入品。酒は造れないし買えない。

先のことは怖くて考えられない状況にある。(自給食料が足りない中、賃金労働の口もほとんど目処が立たないため)

6 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 現金収入

この辺りはケシの栽培に適していないので、自らケシ栽培をするということは無かった。

現在では、賃仕事(労働)の口がほとんど無い。手伝い仕事は、コーカン人のところで何かあればやる、1 日で米 3kg を貰える。

賃仕事が無いので、山で山芋とかを取って生活している。

ケシの作業を以前は 20 元/日で手伝っていたし、仕事が簡単に見つかった。今は、3～4 元/日で 2 食付。

B 食料事情

5 参照。以前は賃金労働で、自給で満たすことのできなかった分の食料購入の費用を稼いでいた。

食料援助を受けたことはあるが、すぐに無くなってしまった。1 人に 12kg の米が収穫の端境期に配られた。

C 健康状態等

去年、病気が流行した時に、8 人死亡している。

7 個人の生活状況

陸稲とトウモロコシをやっているが、3 か月分の穀物しか収穫できなかった。

聞取り調査 4(場所:Shaokai(小街))

西山区小街郷(シャオカイ)郷長・副郷長聞取り
(2004 年 2 月 13 日)

1 郷長・副郷長の身上等

A 氏名年齢等

郷長氏名:李太成、年齢:60 歳、教育:3 年間小学校(大体読めるが書くのが不自由)、昔は 3 年間で十分に学べた

副郷長氏名:羅国良、年齢:49 歳、教育:3 年間小学校(大体読めるが書くのが不自由)

B 郷長・副郷長就任の経緯

コーカン自治区から任命された形であるが、村長の間で副郷長に選出され、前郷長が辞めたことに伴い自動的に郷長に昇格。

副郷長は郷長の書記を勤めていて、村長たちが副郷長を選ぶときに村長ではなかったが選出された。

C 生業

郷長は、水稲と陸稲、(飼料用)トウモロコシを耕作しているほか、お茶を栽培している(製品 1 ヴィス=1.63kg が 2 元)、水牛 2 頭(耕起用)、豚、鶏、ラバ(輸送用)を飼っている。一応、食料は自給可能。

副郷長も同様であるが、自給はできない。お茶のお金で購入する穀物とトウモロコシを食べている。水牛 3 頭、ラバ 1 頭を飼っている

D その他

郷長は、ラオカイに月に 2〜3 回は行っている。また、春節にはこま回し大会に出場するために行った。

2 小街郷の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

村数:19 カ村(120〜500 人程度)
世帯数:940 戸
人口:6,025(男:2,995、女 3,030)
民族構成: コーカン族 75%、パラウン族 25%

B 識字率

シャオカイ村では、5%が読み書きができ、各村には 1 人か 2 人字が読める人がいる。

C 郷内及び上の行政区の町との関係

郷内ではシャオカイが主要な町で、一番遠い村からは徒歩 5 時間程度。
上位の町はラオカイで、物を売りにいったりしている。バスで 20〜30 元、小型車が 50 元、乾期で 4〜5 時間、雨期は 1〜2 日。

D 耕地・作物(郷内)

水稲、陸稲、トウモロコシ、お茶が耕作・栽培されている。土地は、開拓した人のもの。また、スイカや薬物野菜も栽培している農家がある。
水田は郷の耕地の 30%。1 ドン(7.5kg)の籾から 30〜40 ドンの収穫。平均で 5 カ月分の食料生産となっている。
以前は、山頂(郷の外)でケシを作っていた。ケシ畑は、韃靼ソバ、日本ソバとトウモロコシに転作。トウモロコシは食用・飼料用の両方。

E 農具

基本的農具は、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ。
車、ハンドトラクターは無い。

F 住居

基本的に私有。建物は、自分であるいは村人との助け合いで建築する。建物によっては大工を使うこともある。

G その他

NGO(アドラー)が、去年ここを拠点にフードフォーワークの活動をした。

3 学校・保健医療

A 学校

郷で 7 カ所の小学校があり、郷政府管轄の小学校は 2 つ。他の 5 カ所は、住民のみで運営している。郷政府管轄とはいえ、実際の運営面・お金の面では差異が無く、行事のときに郷政府の役人が顔を出すだけ。

シャオカイの学校では、一昨年から見て、半分になり、現在は村の子供 150 人のうち 40 人しか通学していない。40 人のうちパラウン人は 15 人。パラウン人が通学しているのはシャオカイの学校のみで、他の小学校にはパラウン人はいない。

去年の調査では 10 あった小学校が、7 つに減っている。

小学校の先生の費用(4,000 元/年)は、自分たちでお金を出している。シャオカイの小学校の学費は、年間 100 元～300 元。先生は各学校 1 人ずつ。

B 保健医療

以前は、シャオカイに 1 つ診療所があったが、今は無い。薬屋はある。漢方医や呪術師もいない。

4 公共の住民活動等

A 祭り等の共同行事

狩猟を共同でやり、鹿や猪を取る。また、畑仕事を共同で順番にやったりはする。

5 生活必需品等の入手

A 食料品

以前から食料は購入していた。以前はアヘンのお金を使っていた。

現在は、お茶、ラオカイへの出稼ぎ、薬効のある草の根や樹皮(山の資源はほぼ採集しつくしてきたので、他の手段を考える必要がある)。

出稼ぎは、ワ地区でのケシの採集とか、ラオカイではサトウキビ刈り、溝掘り、開拓等。サトウキビ刈りで、10 元/日。

B 医療・教育・娯楽等

薬代だけで 1 戸当り 300～400 元/年は使っている。
重病のときだけラオカイに行く。診療のみなら唯。入院する場合は、最低でも 1,000 元の保証金が必要。

C 農業生産投入・農耕具購入

犂:毎年購入、15～16 元
鍬:毎年購入、13 元
山刀:毎年購入、14～15 元
斧:2～3 年に一度購入、20 元
鉈:1～2年に一度購入、20 元
鎌:毎年購入、5 元

6 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 全般的影響

経済的に悪くなり、生活水準が落ちた。
また、商売をしていた人たちはみんなシャオカイから出て行った。

B 現金収入・食料事情等

出稼ぎが遠くなった。中国にサトウキビの収穫の作業に行く。3 月末には、食料がなくなるので、2～3 月の 2 ヶ月この出稼ぎに行く予定。

C 健康状態等

シャオタン村で 37 人死亡(人口 492 人)、内訳はコーカン人が 4 人で、パラウン人が 33 人。パラウン人の死者のうちほとんどが子供。直接の死因はマラリア。

郷全体では 56 名死亡(6,025 人中)。

コーカン・中国・ミャンマー政府が医師を派遣し、病気は治った。ビルマ政府は 5 名。中国政府は麺を支給してくれた。

7 個人の生活状況

A 農耕の状況

B 現金の支出入等

A･B 共に 1 参照

C 家族及び穀物消費等

郷長
12 人家族(大人 7 人、子供 5 人)、1 日の消費穀物量:10kg。

副郷長
5 人家族(大人 3 人、子供 2 人)、1 日の消費米量:5kg、自己充足は無理。

8 日本ソバの栽培(郷レベル)

2002 年のソバは、ミャンマー政府がまったく購入しなかった(銀行のトラブルで、資金の到着が 3 ヶ月遅れたため)。収穫したソバは、全部食べてしまった。このため、2003 年は誰も作らなかった。

2001 年はちゃんと耕作したが、2 袋(25kg 入り x2)撒いて、収穫が 6 袋。収穫が少なかった原因は、撒いた実を半分は鳥に食べられたり、収穫が遅れたため実った実を風に飛ばされたりした。収入は 1kg=2.1 元。2001 年の生産量は、この郷全体で 100 数十袋。

(この失敗にもかかわらず)もし確実に買い上げてくれるのならば、ソバ栽培をやりたい意欲を示した。現金収入が貴重とのこと。

ソバは、石臼で挽いて粉にし、殻を篩い分けると分量が 1/3 になる。その粉を蒸パン、蒸して粒で食べたり、ところてんあるいはプリン状の物にして食べる。韃靼ソバは、苦いのでプリン状にはしない。

そばの技術指導には、誰も来ていない。種はばら撒く。栽培方法のガイドラインは無いが、農業省の人と日本の専門家が来て、口頭での説明があった。その内容は、「いつ撒いて、施肥をいつやって、いつ収穫する」といった簡単なものであった。

2002 年の希望者は、全員が耕作可能で、4～5 袋貰った人もいた。

買取りが確実ならば、郷全体で 200 袋ぐらいは栽培できる。

肥料の量は余り多くなかった。引き取り費用、2.1 元/袋でもよい。

9 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	160 元 / 25lt	100 元 / 25lt
B 米(最低価格米):	2 元 / kg	2 元 / kg

聞取り調査 5(場所:Tar Pin Chan)

西山区芒楽(マンロー)郷大平掌(ターピンチャン)村長聞取り
(2004 年 2 月 13 日)

1 村長・副村長の身上等

A 氏名年齢等

村長氏名:李英才、年齢:52 歳、教育:なし(識字は簡単なものが読める程度)

B 生業

トウモロコシと水稲・陸稲、日本ソバ、茶。自家消費の半分しか穀物生産が無い。日本ソバは今年、523 元の収入、茶が 300 元。現金収入が足りないので、出稼ぎをする。

中国の炭鉱へ行ったが、歩合制でまったく収入にならなかったので、もう行かない。

2 大平掌村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数:37 戸
人口:217 人(男女比率はほぼ半々であるが、女性のほうが若干多い)
民族構成: すべてコーカン族

B 識字率

村で読み書きできる人はいない。(子供が最近学校に行き始めた状態)

C 耕地・作物(ターピンチャン村)

村長が一番の農家で、よい方の農家で 3 か月分、通常は 1 か月分の食料穀物生産しかできない。
それ以下の人もいて、毎日賃仕事をしている。マンローの辺りでお願いして賃仕事をさせてもらう。
ソバはいい方の人しか耕作できなかった。(土地に余裕が無いため)

D 家畜

水牛、豚、鶏、犬。

E 農具

基本的農具は、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ。単価と購入頻度は 5-D 参照。

3 学校・保健医療・水供給

A 学校

村に学校は無い。村全体で 6 人が学校に通っている。

B 水供給

通常は村の近くの水場。最乾期には、40 分離れたところまで汲みに行く。

4 村長個人の状況

A 家族

9 人家族で、大人 3 人、子供 6 人。
本人、妻(45 歳)、おばあちゃん(82 歳)、息子(13、8、6、4 歳)、娘(5、2 歳)。このうち 8 歳の息子だけが小学校に通っていて、1 年生。学費は 1 年間で 100 元。
このほか、嫁に行った娘(17 歳)がいる。

B 耕地・作物

- 水田 1 ドン分(7.5kg の種籾で、1 ムー=6.67 アールあるいは 0.75 エーカーに播種する分量)。種籾 1 ドン→80 ドン(籾:7.5kgx80)収穫。
- 陸稲 6 ドン分ぐらい、去年は除草する時間が無かったこともあり収穫 0。
- トウモロコシ 2 ドン分去年は 2 ドン→40 ドンの収穫。
- ソバ 2 袋分(50 kg)、50 kg→40 ドン(ソバは 1 ドン 6.5 kg)、523 元の収入(買取り価格 1.7 元/ kg で計算したところ、現金収入を基礎とすると 47 ドンほどの収穫となる。その場合収量は約 6 倍)

- 茶 300～400 株、300 元の収入

以前はけしを栽培しており、現在は日本ソバとトウモロコシに転作している。山の上のほうで作っていたので、陸稲は寒過ぎて作れないとのこと。以下のその当時の模様。

- ケシ栽培でアヘン 2 ヴィス(1 ヴィス=1.63 kg)を生産。3,000～4,000 元の収入があった(高い時には 6,000 元のことも)。労働力は自前とのこと。

C 家畜

水牛 1 頭と犬 1 頭で、水牛は自分の畑地の耕起使うほか、人に貸して籾で 50 ドン稼ぐ。荷運びは人力

D 農具

基本的農具は、鉈・犂・鍬・鎌・斧・山刀の 6 つ。

- 鎌:3 つ、毎年購入、5～8 元/個(芝刈り等の賃仕事が 2.5～3 元/日なので、2 日働いて 1 つ買えるぐらいの計算をしている。賃仕事の働き先は、ターシュエタン、マンロー、ナンゴー(南郭)、パンコン(邦中))
- 鍬:4 つ、毎年購入、10 元/個(1 個買うのに 4 日の働き)
- 犂:1 つ、毎年購入、20 元/個
- 斧:1 つ、隔年購入、30 元/個
- 鉈:3 つ、毎年購入、25 元/個
- 山刀:2 つ、毎年購入、15 元/個

E 食料消費・

1 日 3/4 ドン(精米で 7.5kg。精米の場合 1 ドン=10kg)。ただし、米とトウモロコシを半々に混ぜて食べる。

F 衣料品

1 年に 2 セットの服を購入する。全員で年間 1,000 元。
以前は年間 3～4 セット買えた。

G 医療・教育・娯楽等

薬代 800 元/年。教育費が年間 100 元。タバコ代:8 元/カートンx72 カートン=576 元/年。

5 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 現金収入

6 参照。ケシ栽培時の年収は 3,000～4,000 元(高い時には 6,000 元のことも)、に対し、肥料は、水田・陸稲・トウモロコシを含め 600 元/年使用(青田買いもあり、肥料の資金もそれで出せた)。

B 食料事情

以前は米を必要なだけ購入可能であった。

C 生産への投入と生産性の変化

以前

- ケシ:化学肥料と緑肥を投入
- その他は堆肥と化学肥料を投入

現在

- 少量の堆肥のみ

収量の変化

- 水稲:1 ドン→160 ドンから 80 ドンに低下
- 陸稲:1 ドン→20～30 ドンから 7～8 ドンに低下
- トウモロコシ:1 ドン→80～90 ドンから 10～20 ドンに低下

D 健康状態等

去年、病気が流行した時に、村で 7 人死亡している。

(なおインタビュー中に窮状を訴えた女性は、去年夫を病気で亡くした寡婦で、8 歳の子供が 30 日間高熱を発し続けて、きわめて危険な状態にあるとのことであった。実際の診断なしで、医師に処方された薬を投与したが、効き目が無かったとのこと。お金が無いため、診療を受けさせることができない状態にあった)

6 日本ソバの栽培

村長個人

- 村長は 3 年間、日本ソバを作っている。耕作地はうもろこしと交替にしている。同じ作物の連作は土壌に好ましくないため。また、それらの耕作地は、ケシの栽培地と完全に重なっている。
- 8 月(陰暦)に播種をしたら収穫が悪かった。
- 購入されなかった時は、粉にして(歩留まりが半分)水を加え、丸めて蒸して食べた。味は、おいしいというわけではない。2 袋分(90 ドン:9 ドンの誤りか。2 袋 50kg とすると 9 ドン弱となる)で、2 か月分の食料になった。
- 耕作方法としては、犂で耕起し、鍬で土を細かくする。土が細かい方がよい。肥料を入れるとよく育つ。カリと複合肥料は播種時に、尿素は追肥(20 日後ぐらい)とする。開花してから尿素を入れるともっと収量が出る。
- よく耕起してあれば、除草はいらない。
- 刈取りのタイミングは、葉が落ちて実が黒くなった時。
- 刈取り後は畑で実を落とし、その場で篩う。
- 袋は自分で購入。大袋 1 つ 2 元。小袋 1 つ 1 元。40 ドン(260kg)が大袋 8 つに納まる(1 袋 32.5kg となる)。
- マンローでの政府講習会には参加しなかったが、3 年前にマンローの郷長の説明を聞いている。

村全体

- 村では、おととしと去年耕作を実施。去年は、村全体では 20 戸が耕作し 30 袋 180 ドン(6.5kgx 180=1,170kg で 1 袋 47kg 程度となる)を売った(買取は今年)。失敗が 12 戸、成功が 8 戸。
- 雨が少なかったのが原因と思われる。失敗したところは、以前にケシを作っていなかったところと重なる。低地で暑いため、種が焼けたのだと思う。
- 以前は韃靼ソバも作っていた。
- 引取りばターシュエタンで、輸送費は 1 ドン 1 元。
- 去年の肥料配布は、村全体で 13 袋。負担は 10 元/袋と 15 元/袋。種はターシュエタン引渡しだったが、肥料は、ターシュエタンの場合とマンローの場合があったため。
- 購入してくれるのであれば、村中が 1 袋は作る。ただし、種子は 7 月 15 日(陰暦)までに配布して欲しい(遅くなると収量が落ちる)。去年は 8 月 1 日に種子と肥料が来た。
- 必ず購入してくれるというのであれば、ソバを売ったお金で米を買った方が多く食べられるので。
- また、作業量(耕作スケジュール参照)との関連では、2.5 元/日の賃仕事の相場が判断基準ともなっているようであった。

7 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	5 元 / 本	2 元 /本
B 米(最低価格米):	2 元 / kg	2 元 / kg
C トウモロコシ:	1.7 元 / kg	

聞取り調査 6(場所:Shiyenzu(石園子:Prasinkyaw 村域内))

東山(ドンシャン)区長・副区長聞取り
(2004 年 2 月 15 日)

1 区長・副区長の身上等

A 氏名年齢等

区長氏名:明学昌(ミンシュエチャン)、年齢:50 歳、教育:小学校卒業(先生をしていたこともある。読み書き可)。

副区長氏名・:何自強(ホーズーチァン)、年齢:48 歳、教育:小学校 4 年まで(書く方はちょっと不自由)
(彼らの年代で、学校にいった人は少ない)

B 区長就任の経緯等

区長:清水河特別区の副区長から、コーカン自治区の任命で転任。特別区の郷長を 15 年やり、副区長を 3 年。区長に赴任してからは 6 年。これまでのインフラ整備の実績を買われての転任。
転任後、東山区でインフラ整備を手がけており、道路・マーケット・電気・中小学校の 4 大建設は、彼の功績。
137 国境口は彼の道路建設による開発。道路を作ってしばらくしてから中国側の検問所ができたとのこと。

副区長:郷長からの昇格

C 生業

区長:この地域で 140 年続いた家の出。道路整備事業の料金収入が主収入源(道路料金収入:小型車 5 元、大型車 10 元で年間 30 数万元の収入がある。ただし、道路事業全体では赤字・黒字路線があり、全体ではトントンとのこと)。
道路事業では、100 人の労働者(兵士)を使って、建設と補修を続けている。
そのほか、養豚、サトウキビ(50 ムー)、陸稲。自分の家は清水河にあり、単身赴任中。石園子のホテルは彼の所有。
137 国境にあるホテルも同様。中国に合弁で、自動車修理工場を持っている。中国車がコーカンに輸入できるようになった際には、自動車輸入を手がけ、利益を得た。

副区長:サトウキビ(60 数ムー)、とうもろこし(数 10 頭の豚の飼料と醸造用:プラスチックタンクで 150 個=1 斤の焼酎ビンで 4,500 本、1 本 3 元、ポリタンク 1 つ80元)、陸稲、

2 東山(ドンシャン)区の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

郷数:4 郷、1 村 40〜180 戸
世帯数:5,000 戸弱
人口:34,800 人(男女比率はほぼ半々であるが、女性のほうが若干多い)
民族構成: コーカン族(主要)、パラウン族 3 カ村 150 戸で 750 人程度、シャン族 6 カ村 240 戸 1,000 人程度、ミャオ族 2 カ村 80 戸 400 人程度
パラウン族とシャン族の 2 つずつの村は、ミャンマー軍の駐屯と都市開発により耕作地(水稲・陸稲・とうもろこし)を占拠されており、困っている。このため、今は食料を支給している。

B その他

WFP と日本の食料緊急援助が、東山区を対象から外している。それほど恵まれた状況ではないし、ケシ栽培停止の直接の影響を強く受けているのがこの地域なので、外したのは妥当ではないと考える。

C 区内及び特区内での町と関係

区内の主要な町は石園子:Shiyenzu(20 数年前に開発された新しい町で、小さな村 Parsinkyaw:八仙桌村の一部にできた)。遠い人は 3 時間歩いてくる(徒歩の場合、乾期も雨期も変わらない)。

次はヤーコーガイ:Y 口街と 137 出口を越えた中国側の町(国境から 10Km で、車で 15 分程度)。

ラオカイにはそれほど行く必要がない。上部都市は、中国側となっている。

D 耕地・作物(サトウキビを含む)

米は陸稲が中心で、ソバ、とうもろこしも耕作されている。水稲は少なく、5,000 戸弱の農家のうち水田を所有しているのは 20〜30 戸(このあたりは水が少ないため。ただし山の上の方には比較的水がある)。

東山区ではサトウキビの栽培を奨励しており、現在は 640 戸が 15,000 ムーの土地で収穫を上げている。作付面積は、増えており来年は、700 戸 17,000 ムーの土地から収穫がある予定。サトウキビは高度 1,000m 以上の土地でも土壌がよければできるが、道が無いので、収穫後の迅速な向上への搬入ができない。

ケシ栽培は、主に山間部の不便(道路事情の悪い)ではあるが、土地が肥沃なところで行われていた。収穫は 1 ムー当り 3 斤(1 ビス程度)で、1 ビスが 2,000 元以上はしていた。

土地の所有者は昔から決まっていて、ケシの栽培は、個人または共有地で行われていた。

東山地区の比較的高度の低い地域で道路交通の便のよい地域では、サトウキビの栽培がかなり盛んに行われている。今年度の収益(収入から費用を差し引いたもの)は単位面積収益が 130 元/ムーで、農家一戸平均 23 ムーの作付けをしており、一戸あたりの平均収益は約 3,000 元となる。(買い取り価格:140 元/t、昨年度:作付面積 15,000 ムー、参加農家 640 戸、実績総収益 200 万元、借款総額 500～600 万元、総収入 800 万元。今年度予想:作付面積 17,000 ムー、参加農家 700 戸、予想総収益 500 万元)

ただしサトウキビ栽培は、刈取り後 24 時間以内に砂糖工場に持込まなくてはならない、という制約もあり、道路事情から参加できる農家はまだ限られている。東山区の総戸数 5,000 戸に対し、これまでの参加農家が 640 戸、来年度も 700 戸程度にとどまっているのは、この点に由来するところも多いと容易に推定される。

また中国側は、作物の買取り補償のほか、農家が資本無しでサトウキビ栽培ができるよう無利子の借款(耕起、種子、肥料、農薬、フィルム等の費用を対象とし、収穫時に徐々に返済していけばよい)を用意しており、かなり行届いた作付け指導や刈取り場所での現地引取りをするなど、手厚い支援を行っている。

一般的に 20 ムーのサトウキビ畑で、1 世帯が食べていけると見込んでいる。

E 家畜

区内では一般的に、豚、鶏が飼われていて、牛は少ないが、それでも 45%が牛やラバ等の運搬用動物を所有している。耕起用の水牛は 35%程度の農家。牛や水牛の貸し借りは一般的である。

F 農具

鎌、山刀、鍬、耕起用犂、斧、鉈の 6 つ道具は、農家の必須農具となっているが、牛のない家では、犂は要らない。

G 住居

住まい及び土地は個人所有となっている

H 学校

40 校ある各小学校に 1,000～2,000 元、総額 60,000 元の補助をこれまで出していたが、今年からは出せなくなった。補助金を出していたのは、5 つの区で唯一である。

現在 300 人が通学する石園子の中小学校だけはつぶれないよう支援する予定。

3 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 現金収入

ケシ栽培当時は 15 元/日の賃金労働が豊富にあったが、区内の農民はあまり労働者としては働かず山のほうの農民は少しずつでも自分でケシを栽培していた。したがって労働者は出稼ぎの人が多かった。

現在は、サトウキビの栽培(耕起と播種や刈取り)が 25%程度、木の刈取り(薪作り)が 75%となっており、日当は 7～8 元となっている。

以前は、山の人たちがケシ栽培で人を雇っていたが、現在は山の人がサトウキビ畑で働くようになった。

1 ムー当りの収入の比較(区長による試算)

ケシ	収入:2,000 元	費用:600 元	(売上単価:2,000 元/ビス)
穀類(陸稲・とうもろこし)	収入:300 元	費用:180 元	(売上単価:1 元/kg)
日本ソバ	収入 320 元	費用:120 元	(売上単価:1.7 元/kg)
サトウキビ	収入:800 元	費用:350 元	(売上単価:140 元/t)
水稲	収入:600 元	費用:300 元	(売上単価:1.2 元/kg 精米)

B 食料事情

山の方では、木の根も食べている。去年の飢饉で、食べられるものは食べつくした状態にあるので、今年はこれから大変である。

自給率は 40%程度。水の取得が問題である。

道路部隊は、技術者には 500～600 元/月を支払っており、労働者には兵士を当てている。兵士は小遣い程度の給与で 100 元/月。

ホテルは、以前はケシの買い付け業者等で盛況であったが、今は儲かっていない。

4 日本ソバに関する事項

ソバをやっているのは高地の村。

区長の場合、住民への模範を示すために 2000 年に作付し、2001 年に売った。50 ムーの土地に 30 袋(25kg x 30)

播種し、210 袋(25kg x 210)の収穫があった。それ以降は種子が足りなかったので、やっていない。

以前はとうもろこしを栽培していた土地に、7 月に播種し、20cm ぐらいに育ったところで 1 ムーあたり 40kg の尿素を撒いただけだった。

5 その他の開発ニーズ

太平郷の 12 カ村(新水塘村、小干塘村、明徳村、金竹林村、小寨村、大干塘村、皮匠水村、万年壮村、紅坭塘村、山頭寨村、猴子洞村、大紅木樹村)は、運送が困難で水場が遠いという問題がある。これについては道路整備と水場の改善が 30 万元程度でできるので、配慮していただけるとありがたい。

6 特記事項

6-1　　コーカン地区内の建設能力

東山地区の区長に「コーカン内部に、建設能力を持つ業者・個人・団体等は無いのか」と尋ねたところ以下のような返答があった。

A 建設能力保持者

東山区長「明学昌」及びラオカイ市内の東城区の責任者「劉阿宝」が、道路や建物の建設能力を有する。コーカン内部で建設能力を有するのはこの 2 社のみ。東山区長いわく、自分のところが一番能力が高い。

東山区長は、設計のできる建設技術者・建機操作のオペレーターを擁しており、配下の兵士 100 人を労働力として使用できるほか、地域住民の動員力はいうまでもなく高い。

経験としては、特別区の清水河からロンタンよりちょっと北寄りまでの舗装道路建設の経験があり、東山区内でも区長として道路・市場・電気・中小学校の建設を実施している。ちなみに、清水河-ロンタンの道路建設費のほとんどは区長が出し(数万元に上る)、コーカン自治区がタールの一部のみを供給したとのこと。また、東山区内の道路は、料金を徴収し、補修費に当てている。

B ラオカイーコンジャン間の道路建設

その後、日本の援助により、見本区間のみ建設されたラオカイーコンジャン間の工事について、話題が進んだところ以下のような発言があった。

- 日本が残り区間の建設のために建設機械を残していったのであれば、その機械を使用して、ぜひとも残り区間の道路建設を完成させたい。
- 費用については微妙ではあったが、自前で建設することもありうるような表現で「お金が儲からなくとも、自分がやる。自分の名前を功績と共に残したい」あるいは「自分がお金を出してでもやる」というもの。

ちなみに、大林建設が工事を実施する際には、彼のところには何も話が来なかったとのこと。また、大林はカンボジア人の技術者とカンボジア人及び中国人のオペレーターを使い、中国人労働者により、建設を実施したとのこと。また、ミャンマー政府が実施する場合には、ミャンマー軍の兵士等、外部から労働者を連れてくる。

これについて、外の業者がやると地元にお金が落ちないので、住民に職を与える意味でも工事を実施したいという意向であった。また、東山区外での工事実施についても、問題は無いとのこと。

労働者の能力としては、中国人 80 人=コーカン人 100 人=ビルマ人 150 人という説がある(試したことがある人がいるらしい)とのこと。

7 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	4.2 元 / lt	3.5 元 / lt
B 米(最低価格米):	1.6 元 / kg	1.6 元 / kg
C 米:	2.4 元 / kg	2.4 元 / kg
D とうもろこし:	1 元 / kg	0.6 元 / kg

聞取り調査 7(場所:Malilin)

東山区大平郷麻力林(マリリン)村副村長聞取り
(2004 年 2 月 15 日)

1 副村長の身上等

A 氏名年齢等

副村長氏名:鄧小勇(トンシャオユン)、年齢:36 歳、教育:小学校 2 年(読み書きは忘れてできない)

B 生業

トウモロコシだけを作っている。サトウキビの栽培を始めたところ。

C 就任の経緯

村人に選ばれ、郷政府から任命された

2 麻力林村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数:90 戸
人口:587 人(男女比率はほぼ半々であるが、女性の方が若干多い。前回の統計調査では、女性が 2〜3 人多かった。)
民族構成: すべてコーカン族

B 耕地・作物(麻力林村)

標高は 1,500m。

トウモロコシ(去年は不作)。サトウキビを 28 戸(低地に土地を持っている人)が今年から始めた。したがって収穫はまだ。

日本ソバと韃靼ソバも少し(20 戸が)作っている。去年は、栽培した土地が悪く雨も少なかったので、20cm ぐらいまでしか育たず、枯れたものも多かった。

来年は、韃靼そばは 0 の予定。日本ソバかサトウキビが栽培される予定。

ケシは以前、村のみんなが栽培していた。

村で年間を通じてちゃんと食べられる家は 1〜2 戸。半年食べられる家で 1/3。

C 家畜

豚が各戸 1〜2 頭(減少傾向)。牛が全戸数の 1/3 程度(以前は各戸 1 頭ずつだったが最近売却した家が多くなってきている)。ラバは、村で 10 頭いたのが 2 頭に減っている。

このほか、最近病気で鶏が死んでいる(その他の家畜、豚や犬も病死が多くなっているとのこと)。これはどの村も同じ傾向で、呼吸困難で死にそうになったら、潰して食べている。鶏については、5〜6 日前に病気でバタバタと死んでおり、村ではほぼ全滅状態(改めて注意深く観察したところ、かなり少なくなっていたが、ある程度は生き残っていた)。

D 町との関係

中国の色樹霸(スーシュバ)と石園子が同等。それぞれ 5 日に 1 回市が立つ。当日は色樹霸の市の日で翌日は石園子の位置の日。トウモロコシを売って、商品を買う。買う商品はタバコ・塩・油・洗剤(金が無く米は買えない)。距離はほぼ同じ。

病気の時は、石園子。中国側だと診てもらうだけで 500 元のデポジットが必要。重病の時は、石園子かラオカイ。ラオカイのほうが大きな病院がある。

3 学校・保健医療・水供給

A 学校

村に学校がある。生徒が 30 人(就学対象となる子供は 300 人程度)。

学費は年間で、1 年生:50 元、2 年生:100 元、3 年生:200 元、4 年生:300 元、5 年生:400 元、6 年生:500 元。

頭割りなので、生徒数が少なくなると学費が高くなる。

B 保健医療

(村に診療施設は無く、最寄の薬品店は 137 国境ゲート、診療は石園子か中国側の町、あるいはラオカイ)

C 水供給

通常は村の近くのため池を使っているが、年間2ヶ月程度ため池の水が干上がってしまう。去年はかろうじて1年を通じて水が足りたが、今年は持ちそうも無い。ため池の水は、泥を沈殿させて、そのまま飲む。水が干上がると片道 1 時間以上かかるところに水汲みに行かなくてはならない。

ため池には、動物よけの柵が作れていないので、動物が入ってきて勝手に飲んでいる。

4副村長個人の状況

A 家族

7 人家族で、大人 3 人、子供 4 人。

本人、妻(38 歳)、おじいさん(74 歳)、息子(16、14、11、2 歳)。16 歳の息子は、今年から出稼ぎに連れて行く。14 歳の息子が今度 5 年生になる。

B 耕地・作物

トウモロコシだけを作っていて、サトウキビの栽培を始めたところで、食糧は 3〜4 か月分のみ自給可能。

トウモロコシは、以前は 1 ドン撒いて 30 ドンの収穫があったが、今は 1 ドンが 10 ドンにしかならない。以前は、7.5kg 撒いていたのが、現在は 25kg 撒いている。

来年の播種用の種は、袋に入れて保管している。

C 農具

基本的農具は、斧・鎌・鉈・山刀・鍬の 5 つ。

- 斧:1 つ、10 年に 1 度購入、30 元
- 鎌:3 つ、2 年に 1 度購入、14〜15 元
- 鉈:2 つ、3 年に 1 度購入、20 数元
- 山刀:1 つ、毎年購入、13〜14 元
- 鍬:3 つ、毎年購入、14〜15 元

D 衣料品

全員で年間 1,000 元ぐらいを使っている(含サンダル)

E 医療・教育・娯楽等

これまでに 137 国境ゲートの薬屋に 400 元借金している。これは、おじいさんが関節炎で歩けず、薬代や 40 回の注射の費用。

普段それほどかかるわけではないが、年間 3,000 元ぐらい薬代に使う。薬は、頭痛、咳、チフスなどの時に用いる。子供の病気で 1 回 30〜50 元薬代がかかる。

重病のときに使う点滴は 1 本 100 元。

教育費は年間 400 元(子供 1 人 5 年生)。

F 現金収入

中国のゴム園に行って稼いだ。仕事は植林(穴を掘って植える作業)。去年は、2 ヶ月で 200 数十元持って帰った(1 人分)。日当は 4〜5 元。そのお金で穀類を買った(食費に充てた)。

筍掘りで 100 数十元、土地の開墾(トウモロコシ畑の根起し)200 数十元、などなどで 600 元の収入。

豚を 2 頭売って 1,300 元。水牛 1 頭が 1,400 元に牛 1 頭で 1,300 元。豚を売った場合は、1 ヴィス 15 元。

もうすぐ自分のところで収穫したトウモロコシが無くなる(2 月中にはなくなる)。そうしたらまた出稼ぎをしなくてはならない。

親が病気で寝ている所為もあり大変。

5ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 現金収入

以前は、14,000〜20,000 元をケシで稼いでいた。収穫は 3 ヴィス程度。作付面積は数ムー。生産量は労働力によって変わる(基本的には各戸の働き手の数)。

この村では全員がけしを栽培しており、ケシ畑は基本的に全部トウモロコシ畑になっている(一部日本ソバも栽培)。

ケシ畑は、サトウキビ畑にはなっていない。

B 食料事情

この村ではまだ、食べ物に増量材(芭蕉の仮茎等)を使う状況にはいたっていないが、今後は必要になるかもしれない。

山の薬草類は採り尽くしてしまった(ケシ栽培が止まってから2年間掘り続けたため)。

またトウモロコシが実ったらば、収穫期になる前に食べる人も出てきている。

C 生産への投入と生産性の変化

化学肥料の投入ができなくなっている。

6 日本ソバの栽培

村として日本ソバは2年やっている。

副村長個人として2001年と2002年(この年はケシはやっていない)に栽培した経験では、1袋撒いて収穫が1袋。土地がよい方ではもうちょっとよかったところもあるが、ほとんどは駄目だった。よいところでも50cm程度にしか育っていない。

理由は、気候が合わなかったことだと思っている。栽培法については、撒いたら後は収穫できる、という程度に聞いていた。

栽培方法は、草を刈って、鍬で耕起し、土を砕いてから種を撒いた。施肥もしている。

播種時期は、7月と8月で、雑草に負けた訳でもないのに、20cmぐらいまでしか育たなかった。

そばの食べ方:在来ソバは粉にして、水を入れて米粒大にし、蒸したり、砂糖をまぶしていためたりして食べる。

7 基準価格(現在と5年前)

A ディーゼル油(照明用):	4元 / 本	ー /本
B 米(最低価格米):	2〜2.4元 / kg	ー / kg

聞取り調査 8(場所:Mindar)

東山区大平郷明徳(ミンダー)村副村長 2 名より聞取り
(2004 年 2 月 16 日)

1 副村長の身上等

A 氏名年齢等

副村長氏名:楊桃金、年齢:43 歳、教育:無し(読み書きはできない)

副村長氏名:張小光、年齢:50 歳、教育:無し(読み書きはできない)

B 生業

楊副村長:トウモロコシ、日本ソバ、大豆、えんどう豆、ソラマメ、ジャガイモ

張副村長:トウモロコシ、日本ソバ、大豆、えんどう豆、ソラマメ、ジャガイモ、賃金労働

C 就任の経緯

村人に選ばれ、郷政府から任命された。通常、副村長は 1 人だが、2 つの離れた集落があるので、それぞれの地域から 1 人ずつということで 2 名となった。

2 明徳村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数:78 戸
人口:670 人程度(男女比率はほぼ半々)
民族構成: すべてコーカン族

B 耕地・作物(明徳村)

トウモロコシ、陸稲、日本ソバ、大豆、えんどう豆、ソラマメ、ジャガイモを作付。

作付体系は複雑で、日本ソバは、トウモロコシの収穫前に畝間に栽培し、ソバが実るころにトウモロコシを刈り取り、ソバに日を当てて収穫する場合が多い。また、トウモロコシにえんどう豆を組み合わせることもある。

今年は、えんどう豆やソラマメに虫の被害がでて、収穫が少なかった。害虫は、蚊をもっと小さくしたような虫で、花を食べるので、実ができなかった。残った茎や葉は、牛も食べないぐらいにまずくなっていた。

トウモロコシは以前、化学肥料を追肥していたが、現在は家畜のいる家が堆肥を入れるだけ。

お茶は、乾期に枯れてしまうので育たない。

ケシの栽培地は、トウモロコシ・ソバ・陸稲・豆類の栽培に使っている。

土地は全部個人所有で、男子分割相続で昔から引き継いでいる。

村の周りの薬効のある木の根は、3 年間みんなが掘り続けたので、もうなくなってしまった。

C 家畜

水牛が 20 数頭、牛が 40 数頭、ラバが 20 頭、豚は 60 戸以上で飼っている。鳥は各戸とも飼っているが、春節のころ沢山死んで数が減っている。

D 農具

基本的農具は、斧・鎌・鉈・山刀・鍬・犂の 6 つ。牛のない家は犂が要らない。

E 食料事情

通常、11 月に収穫したトウモロコシは 2~3 月には食べ尽くしてしまう。家畜を売って何とかしているので、芭蕉等の増量剤は使っていない。また、食糧事情が悪い場合には、11 月の収穫を待てずに 8 月ごろから食べ始めることもある。

賃仕事で食いつないでいるが、駄目なら家畜を売る。牛やラバを売り払った家もあり、お金になる物は何でも売る、という状況。

F 賃金労働事情

賃金労働の口としては、ワ地区でのケシの採集作業(3 食寝床付で 5~6 元/日が手元に残る)、燃料の薪作り(1 ヒロ立方で食事つき 15 元・食事なし 20 元:2 日仕事)。村の中には人を雇う余裕のある人はいない。

技術が無いので、建設現場でも雇ってもらえず、中国には行けない。サトウキビ畑は、サトウキビ農家同士の助け合いで間に合っているようで、労働者の募集に来ない。

G 町との関係

中国の色樹霸(スーシュバ)と石園子が同等であるが、石園子では中国からの物に利益を乗せているので値段が高い(例えば、ディーゼル1本が色樹霸で3元、石園子で4.5元という具合)。また、石園子が歩いて3時間なのに対し、中国の色樹霸は2時間なので、色樹霸にいくことが多い。それぞれ5日に1回市が立つ。

目的は、生活必需品(塩、照明用ディーゼル油、刻みタバコ、ラード等)の購入。トウモロコシなどの物を持っていって、売ったお金で買う。

病気の時は、ラオカイか、中国側の街の病院に行く。料金は同じなので、緊急時は中国。ラオカイに親戚とかがいればラオカイ、というような具合で判断している。

3学校・保健医療・水供給

A 学校

村に学校がある。生徒が30数人(就学対象となる子供は200人程度)。

学費は年間で、1年生:120元、2年生:140元、3年生:160元、4年生:180元、5年生:200元、6年生:220元。毎年相談して決める。

去年はお金が無くて閉鎖していたが、よそに子供を通わせるより安いので、今年から再開することにした。学費に関しては、通学する子供の親だけでなく、みんなで支えないといけないという話も出ている。

B 保健医療

(村に診療施設は無く、薬は石園子か中国の色樹霸で市の立つ時に買うか、中国の病院で薬を買う)

C 水供給

通常は村の近くの水源(ため池)を使っているが、今年はもう涸れている。中国側には1軒ごとに井戸があるので、40分かけて(片道)中国側に行ってただで水を貰ってくる。人か家畜による運搬。

歩いて10数分のところに24ヒロの深さの穴があり、底を水が流れている。その水は通年で流れ続けている。以前は、ポンプにより汲み上げ、穴の近くの貯水槽に貯めて利用していたが、ポンプが故障してからは使えなくなった(ポンプは中国側が用意)。手で汲み上げるには深過ぎるので、現在は使えない状態になっている。

これを是非支援して欲しい。

4公共の住民活動等

A 村の集会

上からの通知を伝えるのを含めて年に3〜4回集まる。各戸から家長が参加する。ほとんどが男性。

内容としては、学校関係の事柄のほか、「豚や牛をそれぞれちゃんと管理しろ」「林を無計画に刈ってはいけない」「乾期には草を刈って火をつけない」などを決めている。

5副村長個人の状況

A 家族

7人家族で、大人3人、子供4人。

本人、妻(38歳)、おじいさん(74歳)、息子(16、14、11、2歳)。16歳の息子は、今年から出稼ぎに連れて行く。14歳の息子が今度5年生になる。

1日の穀物消費量は7.5kg。トウモロコシは0.5元/斤(1元/kg)で、600斤以上を買っている。挽いたものを人が食べ、そのかすは鶏にやる。

B 耕地・作物

トウモロコシ・陸稲・大豆(収穫率は1ドンが8ドンになる)・エンドウマメ・ソラマメ・ジャガイモ・韃靼ソバ・地ソバ・日本ソバを栽培。

トウモロコシと陸稲を混ぜたもので6カ月持つ程度の収穫。

C 農具

基本的農具は、斧・鎌・鉈・山刀・鍬・犂の6つ。

D 現金収入

塩とかを買うためにトウモロコシ等を売ることがある。買付け商人に売ると0.6元/kg、自分で市場に持って行くと1元/kg。

6 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 現金収入

張副村長は、ケシで儲かっていたころは7,000～8,000元から多い時には20,000元の収入があった。その時に投入していた肥料は1,000元程度。

B 食料事情

儲かっていた頃は1カ月に4～5回は肉を食べられたのが、今では2カ月に1度ぐらいしか食べられない。

通常の家では、11月に収穫したトウモロコシを2～3月で食べつくしてしまう。また、8月ごろからトウモロコシが完全に実る前から食べ始めたりする。

食料が切れた後は、賃金労働で食いつなぎ、駄目ならば家畜を売る。牛やら場を売り払った家もある。金になるものは何でも売る状態。

賃金労働は、ワ地区でのケシの採集の仕事が3色寝床付きで5～6元/日、薪作り(1ヒロ立方で15元(2日仕事で、食事なしだと20元)。村の中には人を雇える人はいないので、外に出なくてはならない。

技術が無いので、建設現場でも雇ってもらえないので、中国にはいけない。サトウキビ畑は今のところサトウキビ農家同士の助け合いで間に合っているらしく、募集がない。

7 日本ソバの栽培

日本ソバは、張副村長は80斤(40 kg)しか取れなかったので、ほとんど食べた。

楊副村長は売った方が多かった。275 kg売って、647元の収入。2袋(1袋は自分で取っておいた分)撒いた。子供が好きなので、10kg分残した。

そばの食べ方:在来ソバはソバ饅頭で食べることが多い。韃靼ソバは、粉にして鍋で煮て、ラードと塩、唐辛子で味付けして食べる。

聞取り調査 9(場所:Lontan 郷(牛平子壩村))

清水河特区龍潭郷(ロンタンシャン)郷長・副郷長聞取り
(2004 年 2 月 18 日)

1 郷長・副郷長の身上等

A 氏名年齢等

郷長氏名:楊有富、年齢:58 歳、教育:5 年間小学校(一応読み書きができる)

副郷長氏名:李小貴、年齢:54 歳、教育:小学校卒業(一応読み書きができる)

B 郷長・副郷長就任の経緯

コーカン自治区から任命された形であるが、村長の間で副郷長に選出され、前郷長が辞めたことに伴い自動的に郷長に昇格。

C 生業

郷長は、陸稲、(飼料用)とうもろこしを耕作しているほか、日本ソバを栽培、水牛 1 頭(耕起用)、豚 10 頭、鶏(60 羽)、を飼っている。

副郷長も同様であり、水牛 1 頭(耕起用)、牛 2 頭、豚 15 頭、鶏(80 羽)、を飼っている。

2 竜潭郷の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

村数:6 カ村
世帯数:273 戸
人口:1750 人強(ほぼ男女同数)
民族構成: コーカン族 100%
中心となる村は牛平子壩(ニューピンズバ)村(ツン)で、88 戸 400 人程度の人口を擁している。

B 郷内及び上の行政区の町との関係

清水河の中国側の町が一番の町で、トラジ(トラクター改造トラック)で 30 分。一倍に起売買を行う。売る物:トウモロコシが主体で、山の薬草の根。買う物:サトウキビ・塩・加工食品等で村で売るために買う者が多い。(鶏は業者が買い付けに来てくれる)

Y 口街(ヤーコーガイ)は、トラジで 20 分のところで、用件は清水河と同じであるが、規模が小さい。

病気の場合は清水河のミャンマー病院に行くが、X 線設備はラオカイの病院にしかない。

C 耕地・作物(郷内)

陸稲、とうもろこし(1 ドン:9kg、1 ドンを 4 ムーに播種、収量は 10 倍、ただし 0.5 ムーに 1 袋の尿素を使わない場合には収量が 1/4 に落ちる)、日本ソバ(1 ドン:6.5kg、副郷長は 4 袋で 300kg500 元強の収入、郷長は 5 袋で 700 元の収入)、1 ドンを 4 ムーに播種、収量は 10 倍、ただし 0.5 ムーに 1 袋の尿素を使わない場合には収量が 1/4 に落ちる)が耕作・栽培されている。

陸稲は中国のハイブリッドを導入しており、収量が高い。主体はガンヨウという品種で、6kg 播種すると 3,000kg の収量となる(在来種は 6kg が 150kg)。値段は 16 元/kg。

4 年前に副郷長が中国の農家に飛び込みでいって種子の名前を教えてもらい、購入した種子の袋にあるとおりに栽培したら、そのとおりの高収量が得られた。

このほかディヨーという種類は、味はよいが収量が落ちるとのこと。種子は、11 元/kg。

この牛平子壩村では、ケシ栽培時に食物を自給できていたのは 5 戸だけであったが、今は(88 戸中)60 戸を越える家が米の自給を達成している。去年からは他の 5 カ村でもハイブリッドの栽培を始めている。

ケシ栽培の停止は 91 年でその時に、ミャンマー政府が水道を作ってくれた。

陸稲はほとんどの家が栽培しており、お金の無い人は種子や肥料を売る商人から掛売りしてもらい収穫物を売って利子をつけて返す制度を利用している。利子は 80 元の物を買ったらば、100 元を返済する。商売人は清水河のコーカン・中国双方におり、Y 口街にも少ないけれどいる。それぞれなじみの商人に頼っている。

<u>栽培方法</u>

中国のガンヨウ種は、6 kg の種を 3.5 ムーの土地に撒き、複合肥料 1.5 袋(80～90 元/袋)と尿素 2 袋(80～90 元/袋)で 3,000kg の収量となる。

在来種は、6 kg の種を 3.5 ムーの土地に撒き、尿素 0.5 袋(多く施肥すると倒れる)で 150kg の収量となる。

陸稲の栽培には、3 種類の液体と粉の除草剤・殺虫剤を使っており、毒性の強いものも含まれている。7～8 時間散布作業をすると死ぬ恐れもあるので、6 時間で作業を打ち切り家に帰ったらすぐに衣服を洗うとのこと。郷長の違う村に住んでいた甥は、個の農薬作業が元で死んでいる。

除草剤は、効き目は強力だが短期間で効力の無くなるものと効き目は弱いが長期間効力が継続するものを組み合わせて使っている。殺虫剤は 40 元/瓶、除草剤は 20～25 元/kg で、1 ムー当り 60 間を投入している。

D 農具

基本的農具は、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ。
副郷長を含む 5 つ家にトラジ(運搬専用)がある。乗り合いで市に向かう。
また、農薬散布用の噴霧器も陸稲栽培に必要なので、88 戸中 65 戸が所有している。

E 電気・水・道路

牛平子壩村を含む幹線道路に近い 3 つの村には電気、水供給施設、車の通れる道路があるが、その他の村にはこれらが無い。

3 学校・保健医療・水供給

A 学校

郷で 3 カ所の小学校(牛平子壩村 98 年、ターグヴンシャン村 99 年、竜潭壩村 01 年に設立)がある。
牛平子壩村の小学校にはミャンマー政府派遣の先生も 2 人いる 1 人 9 元/月を食事代として村も支給している(いい先生だったらおかずも貰えるとのこと)。中国人の先生も 2 人おり、2 人で 9,000 元/年を村で支払っている。他の村は中国人の先生が 1 人で、条件はそれぞれ 3,000 元/年＋米と 5,000 元/年。
建物はみんな村人が作った。
学齢期の児童 300 人中 180 人が通学している。
学費は 1 年生:100 元、2 年生:120 元、3 年生:140 元、4 年生:160 元、5 年生:180 元、6 年生:200 元。

B 保健医療

この村に診療設備は無いが、副郷長は、マラリア・高熱・下痢などの症状に対する投薬や注射を行うこともある。抗生物質も処方している。これらの知識は兄に教えてもらったものに加え、説明書も読み徐々に覚えていったもの。

C 水供給施設

91 年にケシ栽培を停止した際に、ミャンマー政府が給水施設を作ってくれたが、2 か所の水源から来たもので、乾期には足りなくなることもある。もう1か所の水源からの水を加えると通年で使える状態になる。水が足りない場合は、人とかラバで 20 数分かけて水を汲みに行く。

隣の村では、ため池の水を各家庭(全戸かどうかは不明)に供給する水道があるが、ターグヴンシャン村では、30 分ぐらいかけて水汲みに行っている。

4 公共の住民活動等

A 祭り等の共同行事

道士のいる諸葛孔明の祠があり、祭りの時には皆が集まって線香を上げる。

B 村の意思決定

学校や水道の整備について村で意思決定する場合には、村長がみんなを集め、郷長が意見を聴取し、決定する。1 年に 2～3 回各村で集会を行っている。

5 生活必需品等の入手

A 食料品

以前は、アヘンのお金で食料を購入していた。
現在は、穀類の自給率が高まっており、トウモロコシ、鶏や豚などの売却金や郷内での農業労働などの現金収入で足りない分を補っている。村内の農業労働は 10 元/日で、除草(陸稲の草むしりとトウモロコシの中耕)、農薬散布などの作業がある。

B 医療・教育・娯楽等
C 農業生産投入・農耕具購入

B・C 共に 2 参照

6 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 全般的影響

以前は、ケシで現金収入を得てそのお金で食料を全部購入する家計構造で、食糧を買ってもまだ余裕があった。しかし、栽培の際や物品購入時に商人や高利貸しから借金をしており、少雨で収穫が少なかったり無かったりすると借金が残る状態で、アヘンの値も乱高下するので、借金返済の心配等もあり心が休まらなかったが、現在は自分で必要な分を作っており、平穏なので精神的にはよい。

アヘンで儲けたのは商売人だけで、農家で大儲けした人はいない。

郷長は 2～3 ビス/年、副郷長は 5～6 ビス/年の収穫があった。1 ビスあたりの費用は少なくとも 1,000 元を見込む必要がある。

郷長はケシ作業のため、6 カ月弱の間、2～5 人を継続的に 1 人 10 元/日で、副郷長は 2 人を継続的に雇用していた。

7 個人の生活状況

A 農耕の状況

郷長
陸稲:自家消費、トウモロコシ:豚の飼料、ソバ:700 元の収入

副郷長
陸稲:自家消費で余った分は保存、トウモロコシ:豚の飼料、ソバ:500 元の収入

B 家畜・現金の支出入等

郷長
鶏:自家消費、豚:2,000 元強、ソバ:700 元

副郷長
鶏:800 元強、豚:6,000～7,000 元、ソバ:500 元

C 家族及び穀物消費等

郷長
7 人家族(大人 5 人、子供 2 人)、1 日の消費穀物量:3kg。

副郷長
7 人家族(大人 5 人、子供 2 人)、1 日の消費米量:3kg。

D 支出

郷長
服飾費:2,000 元/年、家は 70,000 元で作ってもらった、薬代:20,000 元/年(喘息もちなので高額になっており、家畜を売ってまかなっている)、交際費:4,000 元/年(家での宴会、お祝い金等)。

副郷長
服飾費:2,000 元/年、家は 100,000 元で作ってもらった、薬代:3,000 元/年、交際費:4,000 元/年(家での宴会、お祝い金等)。

E その他

郷長
中国からの電気を引いており、照明代で 5～10 元/月(電力料金は 1 度:1 元)。

副郷長
20,000 元でトラジを購入しており、乗合の運賃で収入がある。市まで往復 5 元で、内訳は:往 2 元、復 3 元(帰りは荷物があるので高くなる)。
脱穀・精米・製粉機 1 台、トウモロコシ粉砕機 1 台、テレビ 1 台、電気代が動力源・照明・テレビで 34～35 元/月。

8 日本ソバの栽培(郷レベル)

郷全体で 250～260 戸が参加。2002 年は 700 袋、2003 年は 300 袋を播種。2003 年は上部の意向で勝手に減らされたもので、本当は前年と同量をやりたかった。

トウモロコシの間に植えたり、収穫後に植えることもある。陸稲の後の場合もある。播種時期が遅くなると収量が少なくなるので、日本ソバの収量を狙っている人はそばの単作を行っている。

そば栽培は手がかからないのがよい。コスト負担等の話が出た場合は、村人と会議を開いて決めたい。

食べ方としては、蒸しパンやソバ饅頭のほかに、そば粉に砂糖・ソーダ・卵等に水を加えて混ぜ、それを中華鍋でクレープ上に焼いたものも食べる。

9 基準価格(現在と5年前)

A ディーゼル油(照明用): 130元 / 20lt
B トウモロコシ: 1元 / kg

聞取り調査 10(場所:Taushwe(道水・光山村境界))

東山区道水郷副郷長聞取り(治安担当者同席)
(2004 年 2 月 19 日)

1 副郷長の身上等

A 氏名年齢等

氏名:羅正富 、年齢:48 歳、教育:5 年間小学校(その後中学校の教材で自習しており、読み書きができる)、住居は聞取り場所から 8km 離れた阿拉片村。

B 郷長・副郷長就任の経緯

コーカン自治区から任命された形であるが、村長の間で副郷長に選出された。郷長は逝去し空席であるが、副郷長 2 名の共同実施体制になっている。

C 生業

陸稲、トウモロコシ、日本ソバ、ソラマメ、エンドウマメの栽培を行っている。
家畜は、鶏 100 羽、豚 4～5 頭、水牛 2 頭、牛 2 頭、ラバ 2 頭を所有。

2 道水郷の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

村数:10 カ村
世帯数:607 戸
人口:4,000 人強(ほぼ男女同数)
民族構成: ミャオ族 33 戸 300 人強、残りは全部コーカン族(95%)

B 識字率

2,000 人のうち 300 人ぐらいが字がわかり、字を書けるのは 100 人ぐらい。

C 郷内及び上の行政区の町との関係

ラオカイ、クンロン、Y 口街(ヤーコーガイ)が大きな町。所要時間は、それぞれ徒歩で 7 時間半、4 時間、4 時間。

ラオカイには商品を仕入れて村で売るために行くことが多く、ペキンジープ(50 元)やトラック(30 元)を利用する。乾期の所要時間は、それぞれ 2～2.5 時間、4 時間。雨期は、道の状態しだいなのでどれぐらいの時間がかかるかわからないし、トラックは通行不能。道が崩れたら、もちろん通行不能

クンロンでは、ミャンマー米が安いので、薬草の根や鶏を持って行って売った代金で買う。Y 口街へ行くのは、ラオカイとほぼ同様の目的。

同水は郷の中心で、郷内の一番遠いところからは徒歩で 3 時間。徒歩の場合、雨期も乾期も同じ所要時間で行き来できる。

D 耕地・作物(郷内)

主要穀物は、陸稲(収量:施肥 150 倍、施肥なし 50 倍、1 ドンを 2 ムーに播種、郷全体で 1, 500 ドン播種)とトウモロコシ(収量:施肥 100 倍、施肥なし 30 倍、1 ドンを 2 ムーに播種、郷全体で 1, 000 ドン播種)で、自給可能なのは 60 戸程度。悪い方の 60 戸は 2～3 カ月程度しか自給できず、平均的自給可能期間は 4～5 カ月。

副郷長の経験では、深耕と施肥が収量に効果的。

水稲は少なく郷全体で 250 ドンを播種したのみ(1 ドンを 1.5 ムーに播種)

日本ソバ(2～4 倍:これより低い場合もあり)、ソラマメ(5 倍)、エンドウマメ(3 倍だが悪いところは 1 倍)。

トウモロコシと日本ソバが、この郷の主たる換金作物となっている。

このほか、クルミやクリも増えている。ほとんどのクルミは植樹したばかりで、まだ実を結ぶにいたっていない。数戸が植えていたこれまでの実績によると大きな木 1 本で 1,000 個/年、100 個 10 元なので 100 元/年の収入が見込めるとのこと。クリの収入はあまりよくない。

クルミとクリ共に植樹 6 年後から収穫ができるようになる。クルミの在来種はその後何 10 年も収穫できるが、あまり樹高の高くならない新品種は 14～15 年の収穫寿命となる。

このほか自家用程度のお茶の栽培もある。

E 家畜

牛(200頭)・ラバ(230頭)は輸送用で、水牛(270頭)が耕起用。豚(2003年に1,300頭)と鶏は売却用と自家消費用の両方。ヤギを30数頭飼っている家が1個ある。牛や水牛の繁殖は原則として自分たちで行い、購入するとしても子を買っている。

子豚だと60～70斤の重さで、2～3カ月で200斤ぐらいにするのが理想的。生きた豚で1斤3元。肉にすると1斤6元。鶏は生きた状態で1斤6元。1羽の重さは5～9斤。

F 農具

基本的農具は、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の6つに加え、陸稲栽培用の噴霧器。噴霧器は3戸に1戸所有しており、持っていない家は借りている。ただし、陸稲の除草剤・殺虫剤は最近、買えなくなってきている。

輸送用のトラジが郷内で1つ。以前は、お金はあったけれど、道路が無かったので購入できなかったが、今は反対。(郷政府として1台は必要なのでコーカン自治区に要請している)

精米機は、ほぼ1村1台。精米料は1ドン(7.5kg)1元。

G 課題

道路・水・学校が問題。

3 学校・保健医療・水供給

A 学校

郷内に4つの小学校があり、そのうち2つにはミャンマー政府派遣の教師がいる。就学率は1/3程度。

建物は住民が建てており、コーカン自治区が数100～数1,000元出している。また、毎年の運営補助金もある(ただし去年は、話はあったけれどお金はこなかった)。先生の給与は3,000～4,000元/年。学費は学校ごとに異なり、また通わせる子供の数とその家の豊かさによっても異なっている。最低は1人10元/年で、通常は100～300元/年。

これから学費が払えない家が出てきて、学校がつぶれることが予想される。今度の新学期が始まる時に、金を納められるかどうかが問題となっている家が少なくない。

B 保健医療

子供が病気になっても医者がいないため、診療を受けられない状態なので、ミャンマー政府に診療所の建設を要請している。薬屋はあるが、処方できる人はいない。

病気の場合は、クンロンのミャンマー病院かラオカイの病院に行く。

C 水供給施設

同水村・光山村周辺では、近くの池を利用しているが、水汲み場まで30分(1.5kg)かかる。

ここから2.5kmのところに湧水があり、そこから導水管を引くことにより給水できるが、管を購入する資金が無く、コーカン自治区も資金提供をしてくれない。これを完成させると光山村のすべてと道水村ともう1つの村の一部もカバーできる。

6カ村では平均で往復30分ぐらいのところに水汲みに行っている。

4 公共の住民活動等

A 生活環境の改善等

特には無い。

B 祭り等の共同行事

諸葛孔明の時代に開かれた仏教の祠があり、祭りの時には皆が集まって線香を上げる。

C 村の意思決定

1年に2回ぐらい各村で集会を行っている。光山村では電話を通すことを決め、現在は1分1元で使えるようになっている。また、学校の費用負担のやり方等も話し合われる。

5 生活必需品等の入手

A 食料品

トウモロコシ、ソバ、家畜等を売った金で米その他生活必需品を購入する。

B 自給状況

5月～8月に穀物が無くなる人が50%、3月過ぎに無くなる人が30%、米だけで1年間もつ人は10%程度。米が足り

なければ、山の芋をおかゆに足して食べる。芭蕉の仮茎やジャガイモを足すこともあるが、これはよっぽどひどい時。

6ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

アヘンの生産量は、副郷長1が10ヴィス強/年、副郷長2が7～8ヴィス/年、治安担当が6ヴィス/年あり、それぞれ4～5人、3～4人、4～5人をケシ栽培の繁忙期2～3カ月間に雇っていた。人件費は日雇いの場合10元/日で、1カ月間長期に雇い食事をつける場合には8元/日だった。

また、高利貸しから借金をした場合には1,000元の借金の返済が1ヴィスのアヘンで行われた。

B 全般的変化

少数民族(ミャオ族)では、栄養不良で浮腫が出ている人もいる。食用油が変えなくなっている状態。

また、肥料が買えなくなってので、施肥ができなくなっており、収量が落ち続けている。

交通費が無く外に出られないので、コーカン内での労務賃仕事をしている。金額は4～5元/日。

資金不足で学校や水供給・道の整備ができない。

子供の病気や穀物不足の際に家畜の売り食いが行われ、家畜が少なくなっている。

また、アヘンを少し取っておけば、すぐに現金かできたのに、今は現金を得るのに時間がかかる。

C 土壌・耕地

ケシの栽培は、山の上を耕して行っていたので、土壌がたくさん流れたが、今はやっていないので流れない。土地を変える必要があり、毎年拓いていたので、きつい斜面でも消し栽培を行っていた。

ゆるい斜面のところの方が、土壌も流れず、けしの収穫もよかった。

7個人の生活状況

A 農耕の状況

副郷長1
トウモロコシ:2,000元/年(2,500kg x 0.8元/kg)

副郷長2
トウモロコシ:1,000元/年、日本ソバ:600元強/年

B 家畜・現金収入等

副郷長1
トウモロコシ:2,000元/年、鶏・豚・牛の販売

副郷長2
トウモロコシ:1,000元/年、日本ソバ:600元強/年、雑貨店で電話あり:6,000～7,000元/年(利益)

治安担当
薬局:3,000～4,000元/年(利益)

C 家族及び穀物消費等

副郷長1
16人家族(大人6人、子供10人。ただし実質は大人5人子供9人の14人で生活:大人1人22歳の娘はラシオの飲食店で働いているがミャンマー語ができず身分証明書が無い、毎月帰宅はする。また、15歳の男の子はクンロンの中学校で勉強中)、1日の消費穀物量:10kg。

副郷長2
8人家族(大人4人、子供4人。ただし実質は大人2人子供3人の5人で生活:大人1人20歳の娘はタイに出稼ぎに行ったばかり、大人1人18歳の息子はワ地区にビデオ放映の仕事で出稼ぎ、子供1人がラシオで就学中)、1日の消費米量:3.5kg。

治安担当
8人家族(大人4人、子供4人)、1日の消費米量:5kg。

D 支出

副郷長1
教育費:5,000元/年(クンロンの中学)、塩:100元/年、ラード:2,000元/年(ただし豚をつぶした場合は、自給も可)、被服費:3,000元/年、薬・医療費:通常300元/年(病気になると10,000元)、社交・嗜好品費:3,000元/年、肥料・

農薬等:1,000 元/年、農具類:300 元/年

副郷長 2
教育費:ラシオの中学 5,000 元/年・地元の中学 300 元/年・小学 1 年生 50 元/年 X2、塩:70 元/年、ラード:1,000 元/年(ただし豚をつぶした場合は、自給も可)、被服費:1,500 元/年、薬・医療費:30,000 元/年(妻が乳癌の手術をしたため)、社交・嗜好品費:3,000 元/年、肥料・農薬等:500 元/年、農具類:100～200 元/年

治安担当
教育費:地元の小学生 300 元強/年 X2、塩:80 元/年、ラード:1,000 元/年(ただし豚をつぶした場合は、自給も可)、被服費:2,500 元/年、薬・医療費:薬局なのでそれほどかからない、社交・嗜好品費:1,000 元/年、肥料・農薬等:600～700 元/年、農具類:200 元/年
農具に関しては、鍬の質が悪くて毎年買わなくてはいけないことという発言があった。

8 日本ソバの栽培(郷レベル)

高度が高いため、トウモロコシとの輪作はできない。正月前の現金収入となるので好ましい。日当りのよい土地がよい収量を上げ、日当りの悪い土地ではソバの背は伸びるが収穫は少ない。

副郷長の場合は、4 袋で 320kg の収穫。

ソバはクレープかホットケーキ状にして食べる。買取が無かったときには、おかゆ上にして食べたこともある。

肥料が配給でなくなれば施肥できなくなるので、栽培農家が少なくなる可能性が高い。また、購入保証のみの場合は種子や肥料が買えない人が多いだろう。もし、後で購入額から差し引くということであれば、ある程度の参加者がいると思う。

種子等は郷として Y ロ街まで取りに行く。

今年は 250 袋までに増やせる。

昨年は土地に余裕のある 170 戸が参加し、150 袋播種。収穫は 14,436kg の収穫(収穫率 3.8 倍)。収穫のばらつきは、1 袋弱～6 袋。6～8 月に雨が無く、開花期に雨が無かったので、収量が少なかった。

9 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	3 元 / 本	5 元 / 本
B 米:	2 元 / kg	2 元 / kg
C トウモロコシ:	0.8 元 / kg	1.6 元 / kg

聞取り調査 11(場所:マンジュウ村)

東山区民族郷マンジュウ村元村長聞取り
(2004 年 2 月 20 日)

1 元村長の身上等

A 氏名年齢等

氏名:チャオスー 、年齢:62 歳、民族:パラウン族、

B 村長を辞めた経緯

村内のパラウン族住民からの村の規則に反したコーカン族の住民に対する補償請求があまりに厳し過ぎ、同じパラウン族の村長としてもその補償をコーカン族住民に強制することに抵抗があったため、辞任。

2 マンジュウ村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数:127 戸
人口:500 人強(男が少し多い)
民族構成: コーカン族 10 戸、残りは全部パラウン族

B 識字率

1 人だけ。

C 町との関係

ラオカイの町以外はだまされるのが怖くていけない。

D 耕地・作物(村内)

水稲、陸稲、トウモロコシ、サトウキビ(今年から参加:パラウン 10 数戸、コーカン 3 戸)。パラウンで水田を所有している農家は 5 戸だけで、コーカンは 4 戸。

水田を借りている農家は、地主が耕起を手伝った場合は収穫の半分を、そうでない場合は収穫の 1/3 を地代として物納する。

E ビルマ軍の接収

92 年前にビルマ軍が駐留する際に土地を接収し、代替地をくれなかったので、水田も畑も無い農民が半分いる。基地の周辺は立ち入り禁止で、耕作も放牧もできない。

接収前は、みんな水田を持っていた。

F 家屋

元村長の家を含め、しっかりとしたつくりの家はパラウン人では 3 軒のみ。元村長は、薪・米等を売った金をためて建設している。

3 学校・健康状態・水供給等

A 学校

3 年前にみんなでお金を出して作った。生徒は 46 人、コーカン 12 人、パラウン 34 人。学齢期児童数は 300 数 10 名。コーカンの生徒は隣村から来ている。

学校の建設は、村人が集まって決めた。無理強いをしたわけではない。子供が多いので、字ぐらい知らないと大変だと元村長が思い、みなに勧めた。

学費は学年に係らず一律 130 元と米 1 ドン(10kg)

小学校の建物が、竹作りなので、もうすぐ建て直す必要がある。

B 健康状態

4～5 年前よりも病気は減っており、子供の病気は去年は多かったが今年は少ない。

C 水供給施設

今は乾期で、水源まで往復 1 時間かけている。村内の 2 つの水源は、2～3 月に涸れてしまう。

D 電気

電気が無いので、ほしい。

4生活必需品等の入手

A 収入

薪作りや耕起、サトウキビ刈りなどの賃仕事をしている。日当は 5～8 元。出稼ぎにも行きたいけれど、若い女性が人身売買に引っかかりそうになったりしたので、怖くて遠くにはいけない状態。

B 自給状況

自給率は4～5カ月。自給が可能な農家はコーカンが6戸、パラウンは水田を所有する5戸のみ。通常は、米とトウモロコシを混ぜて食べており、これまでのところ芭蕉の仮茎等の増量剤を入れる必要は生じていない。

コーカンの家は、パラウンほど困窮していない。

5ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

以前からケシ作りはしていなかった。昔は歩いていけるところで賃仕事をしていた日当は 15～20 元超)。

B 全般的変化

今年は去年より仕事が少なくなった。雇ってくれている農家もお金がなくなってきている。賃仕事の単価も 7～10 元/日から5～8元/日に下がっている。ラオカイの町の建設工事(15～17 元/日)も今はなくなった。

6個人の生活状況

A 農耕の状況

水田、陸稲、パパイヤ

B 家畜・現金の収入等

水牛 4 頭、豚 5 頭、鶏 100 羽(ただし正月にほとんど死んだ、村中同じ状況)、堆厩肥は水稲と陸稲に使っている。

C 家族及び穀物消費等

大人 7 人子供 1 人の 8 人で 1 日 7.5kg の米を食べる。

D その他

ビデオの上映で 1 人 1 回 0.3 元の収入を得ている。精米機も所有。

7日本ソバの栽培(郷レベル)

日本ソバを植えたけれど、2002 年 2003 年とも 20cm ぐらいにしか育たず、まったく実らなかった。ちゃんと育つように説明し、そのとおりやったけれど駄目だった。播種は 7 月。参加農家は 10 数戸ですべて同じ状況で、花は咲いたが実らなかった。

原因としては、雨が少なく水が足りなかったことと土地が合わなかったことの両方が考えられる。

聞取り調査 12(場所:ラオカイ(老街))

コーカン自治区サトウキビ転作奨励事務室聞取り
(2004 年 2 月 20 日)

1 出席者

責任者(副県庁の 1 人チョージーミン)、東山区副区長、事務室主任(パラウン人)、事務室副主任(コーカン人)

2 中国との契約

中国と契約を結びサトウキビの作付けを行っている。中国は買取責任、コーカン側が作付責任を負っている。契約は2003 年度を含め 3 年間の収穫を対象としている(現在は 2003 年度の終わりの方で、2002 年作付分の収穫)。作付面積は、3 万ムー(10 万 t/年相当)を保障されているが、道路事情が障害となっている。

南山の工場に運んでおり、その工場は 3,000t/日の処理能力(100 万 t/年)があり、30km 以内が運送可能範囲となっている。サトウキビ工場の要求は、刈取後 24 時間以内の持込。工場建設には、1 億元投資されており、本契約には工場が銀行から 600 万元借りているが、砂糖の製造販売で十分に回収できるものとなっている。

種子・肥料・農薬・フィルム・耕起の費用として 1 ムー当り 400 元の借款を、利子無し、返済はサトウキビの販売時に徐々に行えばよい、という条件で与えた。

運搬のトラックは、中国側とコーカン側双方で手配している。

3 実施地域と参加者

東山区のみで実施しているが、紅星区(この地域にはサトウキビ栽培に適した土地が無い)の数軒の農家に東山区の土地を貸して実施している例はある。しかし、それ以外、600 戸の栽培農家のほぼすべては全部東山区の住民が実施している。とはいえ、西山区の住民に土地を貸してもよい。

盛んなのは民族郷で 27 カ村のうち参加していないのは 4 カ村のみ。ヤンチン、ターシンヤオアールの各村の栽培面積が多く、シンガイ村のヤンチェンクィという人が 8t/ムーの高収量を達成している。

2002 年にケシ栽培が前面的に禁止になり、住民はみなサトウキビへの転作を望んでいた。

4 サトウキビ栽培の現況

栽培適地は高度 1,200m 以下。

栽培地は丘陵地なので、あまり傾斜の激しいところは無く、土地の高度が栽培上の問題となっている。

栽培地は 17,000 ムー以上で、小規模のものもあって増え続けている。生産量は正確に把握できないが、今のところ収穫面積が 15,000 ムーで 1 ムーの平均収穫量は 3.5t/年で、2～8t/年のばらつきがある。

収量の差は、土地の肥沃度、発芽期等の天候や栽培管理(除草や施肥)が影響している。また、様々なタイプの種子(乾燥や湿気に強いものと弱いものなど)があり、その選定を誤ると成績が悪い。品種は乾燥や土壌水分量に対する適応性に糖度の違いがあり、10 種類を主に栽培している。糖度の高さは工場での引取りの際に問題となり、低過ぎる場合には拒否される。

サトウキビの栽培地は、以前はトウモロコシか陸稲を栽培していた。農民にとって、手のかかるトウモロコシや陸稲よりも、手のかからないサトウキビの栽培の方が望ましい。

ケシは、不便なところ、標高も高いところで栽培していたので、サトウキビの栽培地とは重ならない。

5 栽培技術等

春撒きは 9～10 カ月、秋撒きは 13～4 カ月、冬撒きは 12 カ月で収穫となる。

施肥は播種時に専用肥料を 2～3 袋/ムーを施肥、30cm ぐらいに成長した時に尿素 1～2 袋/ムーを追肥するのが基本で、丁寧な人は堆厩肥も入れる。

秋にニエチョンという虫が発生しやすく、4～5 日で 2～3 カ村が全滅するので、見つけたらすぐに農薬を撒く必要がある。また、予防的に散布する農家もある。このほか、アリが根を食べるので、駆除のための農薬も使う。

栽培したサトウキビは、悪くて 2～3 年、よければ 8 年間連続して収穫できる。収量は 2～3 年目がよい。

道路建設については、これから検討するという段階で、交通の便のよいところから作付けを始めている。

1 ムーの刈取労働は、4～5 人日。ただし、実り具合にもより、2 人で十分なこともある。

聞取り調査 13(場所:大水塘)

西山区大水塘郷副区長兼郷長聞取り
(2004 年 2 月 22 日)

1 副区長兼郷長の身上等

A 氏名年齢等

氏名:周徳声 、年齢:60 歳、教育:小学校 4 年間(読み書きはだいたいできる)

B 副区長就任の経緯

区内の村長及び郷長の推薦で副区長に選ばれ、コーカン自治区に任命された。副区長は 2 名おり、今の区長は副区長在任時に区長に推薦された。

2 西山区・大水塘郷の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

		西山区	大水塘郷
郷・村数:		4 郷	17 カ村
世帯数:		4,000 戸	1,340 戸
人口:		30,000 人強(男が少し多い)	10,100 人(男が少し多い)
民族構成:	コーカン族	78%程度	ほぼ 100%
	パラウン族	10%	―
	ワ族	7～8%	―
	ミャオ族	5%	1%未満

B 識字率

識字率:	読書き	2～3%	5～6%
	読むだけ	―	30%

C 区内及び上の行政区の町との関係

区内の主な町は大水塘、小街(シャオカイ)、チャージーシュー。大水塘が大きいが、人々の集まる目的はほぼ同じで、塩や油等生活必需品の購入。大水塘から小街までは、雨期にはチェーンの装着が必要になり、3.5～4 時間かかる(場合によっては 1 日以上かかることも)。大水塘ーチャージーシュー間は、雨期は車では行くことができない。乾期の所要時間は 1～1.5 時間(6km ぐらい)。

上位の町はラオカイで、近い人は野菜を売りに行く(ラオカイの方が大水塘より高く売れるので、多少遠い人でも売りに行く)。売るものは主に野菜、トウモロコシ(大水塘で 1 ドン 8 元がラオカイで 9～10 元で売れる)で、売却代金で商品を買って帰り地元で販売する。

D 耕地・作物(郷内)

主にトウモロコシ(1 ドンを 1 ムーに播種)、水稲(収穫率:在来旧種 20～30 倍、在来新種 50～60 倍)、陸稲(日当りのいいところだけで、ごく少量。日射量が足りず、肥料を入れても背が高くなるだけで収量が増えないので、背が低いままで育てなければならず低収量に終わる)

ソバは日本ソバ・韃靼ソバ・在来種のソバをたくさん植えている。日本ソバが主なものになっている。

E 家畜(郷内)

水牛は無いと耕作が出来ないので 70%以上が所有(水牛の繁殖場がたくさんある)

牛は 20%弱が所有しており販売用の肥育が多い(10 頭飼っていたら 8 頭が販売用で 2 頭が運搬用というような割合)

ラバが 5%ぐらいで豚と鶏は多くの家で飼っていて自家消費用が多い。鶏は春節後にたくさん死んだ。

子豚が 1 頭 600 元(ただし自家繁殖が多い)でよい豚は 3,000 元(ただし値下がり中)、水牛は通常の成牛で 2,000 元、よく太ったもので 3,000 元。普通の牝牛は 1 頭 1,000 元で売れる。

F 農具

基本的農具は、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ。
犂:25～30 元(毎年購入:鍛冶屋が作成。注文が集中すると高くなる。鉄を持ち込むと 25 元のときに 20 元で作ってもらえる)
鍬:7～8 元(毎年購入:1 人 1 丁)
鎌:5～6 元(2～3 年に 2 つぐらい購入)
山刀:10 元ぐらい(毎年購入でも足りないぐらい。石に当たると欠ける)

鉈:15 元(毎年購入:1 戸に 2～4 丁)
斧:20～30 元(1～2 年に一度購入で修理も可:1 戸に 2 丁)

G 土地建物等

土地を持っていない農民はいない。

3 学校・保健医療・水供給等

A 学校

区内に 60 数カ所。郷内は 15 校(ここ 2～3 年で 2 校が閉鎖された後の数字)で全部小学校。就学率は区内・郷内とも 20%程度。生徒の数は半分に減っている。

学校は建物を村人が建設し、通学児童の親が先生の給与を負担している。

学費:4～6 年生 300 元/年・3 年生 250 元/年・2 年生 200 元/年・1 年生 150 元/年

B 保健医療

大水塘に中国人の診療所が 3 カ所ある(かなり減っている)。ミャンマー病院が 2 つ(大水塘とナンゴーに所在。ミャンマー病院は、値段は安いが薬が無いのが問題。中国人診療所の場合、診察費は特に決まっていないが 5～10 元かお米を上げたりする。

大水塘に薬屋は無い。

C 水供給施設

大水塘村には 2 つの水源があり問題は無い。水源からパイプで水を引いている。4～5 年前、郷と区の政府で数千元を出してくれた。水場は自分たちで 3～4 戸に 1 つぐらいの割合で建設した。

D 電気

中国からの電気が来ている

4 生活必需品等の入手

A 食料自給状況

米をたくさん作っている家は米を食べ、トウモロコシと米を混ぜて食べるところ、トウモロコシだけのところもある。

郷の自給能力は 7～8 カ月分。完全に足りているところは 10%程度。半分以下のところが 40～50%。足りない分は賃金労働の収入で補う。

B 収入

賃金労働は、この辺りには無いので、下に行ってサトウキビの収穫をしたり、ワに行った人もたくさんいる。最近、毎日ワから人が帰ってきているがあまり稼ぎにはなっていない。採集で日当が 5 元の収入に対して、バス代が 50 元に食べ物や着る物、薬代等もかかる。

5 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

郷長の場合、ケシを栽培していたころの収穫は、8～10 ヴィスの収穫があった。家族で 9 人の労働者がいたので、基本的には他から雇い入れる必要は無かった。1 ヴィスが安くて 2,000 元、通常は 4,000～5,000 元。化学肥料は 1 ムーにつき混合肥料を 4～5 袋と尿素 2 袋。収穫期には労働力を少々雇い入れた。余剰のお金は親戚の家の建設に使った。

一般的には、各戸ともケシ栽培を行っており、1 戸で 1～1.5 ムーぐらいの土地で栽培し、2 ヴィス程度の収穫があった。大規模なところで 3 ムー程度。

72～73 年は、1 ヴィスで水牛が 4～5 頭買えた。現在の価値に直すと水牛 2,000 元として 1 ヴィス 8,000～10,000 元。

B 全般的変化

2003 年の 8～10 月に健康状態が悪くなり病気による大量死が出た。全体で 110 人強内訳は、シャオガイ:30 数名、マンロー:10 数名、チャジーシュー:残り。水田がタンルウィン川沿いにあり、昔は水田仕事をする時は薬や注射を持っていったが、今は持っていけないのでマラリアにかかりやすくなった。また、病気になっても病院にいけない。シャオガイで死んだのはほとんどがパラウン人。

このほか就学率の低下、肥料等の投入量の低下になって現れている。

C 特記事項

中国から大水塘に出稼ぎに来ていた貧しい中国人女性が、3 人の子供を残して自殺した。

6 個人の生活状況

A 農耕の状況

トウモロコシ:3～4 ドン播種して 500 から 600 ドンの収穫(1 ドンを 1 ムーに播種し、最高で 200～300 ドンの収穫が見込める)。昔は三種していたが、無駄な株が多く生じるので、2 粒ずつ格子状に穴に入れ堆肥を入れて土をかぶせる。

水稲:4～5 ドンを播種し収穫が 200 ドン(1 ドンを 1 ムーに播種)。

日本ソバ:1 袋(25kg)播種して 2～3 袋収穫。

韃靼ソバはその加工品を子供が好きなので少量栽培。通常 1 ドン播種して 30 ドンの収穫が見込める。在来種のソバは 1 ドン播種で 10 ドンの収穫が見込める。

米が足りない場合は、トウモロコシを売って米を買う。

B 家畜・現金の収入等

水牛 2 頭(農耕用で親戚にも貸すが金は取らない)。牛 8 頭(金が必要なときに売る。去年 1 頭売ったときは 960 元だった)。ヤギ 6 頭(売却用で、去年 1 頭売って 500 元)。ラバ 2 頭(運搬用)。豚 4 頭(自家消費用で去年は 4 頭潰した)。鶏 40 羽(市場で弱った鶏を買って食べると自分の鶏に病気が感染するのでよくない)。

C 家族及び穀物消費等

大人 4 人・子供 4 人の 8 人家族で、米の消費は 5kg/日。

D 支出

教育費:小学 6 年生 300 元/年・3 年生 250 元/年・1 年生 150 元/年。

2,000 元の米を買うとすると 4,000 元の日用品を買うような感覚。

塩が 2 袋 x 50kg x 2 回/年。90 元(人だけでなく、豚や牛も食べる)。ラードは足りなければ買う(1 ヴィス 15～20 元:売りに出す人が多いと安い)。

衣類は 1 年に 2 セットは必要。

薬代・医療費は、薬を周りの家に分けてあげたりするので、1,000 元/年。社交・嗜好品費:1,000 元強。

肥料は年間で、混合肥料を 15 袋(50kg) x 25～30 元、尿素 15 袋 x 80 元。水田用の農薬を 40～50 元/年。

E 農具

基本的農具、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つに加え、精米・脱穀機を購入したばかり。電力線を引いて動力に使っている。金額は 2F 参照。

7 日本ソバの栽培(郷レベル)

郷長の 3 年間の実績は 1 袋播種で、収穫が 1 袋、2 袋、3～4 袋。

そばの出来は、化学肥料施肥の適切さ、地形(日当り)や土壌を考慮した播種、日射量、播種時期、雨等に左右される。

施肥は、もらった肥料の半分とか 1/4 ぐらいを使っている。播種時と追肥を行うのがよい。1 戸が 1.5 袋ぐらいを播種した。

去年は買取なしで、全部持って復って食べた。今年も買ってもらえない分があり、もって帰って食べた。

食べ方は、粉にして蒸しパンか寒天状のものにして食べる。紹介されたような食べ方は難しくて出来ない。

8 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	4.6 元 / lt	3.2 元 / lt
B 米:	3 元 / kg	3 元 / kg
C トウモロコシ:	10 元 / 9kg(1 ドン)	10 元 / 9kg

聞取り調査 14(場所:熊吊岩村)

西山区大水塘郷熊吊岩村村長聞取り
(2004 年 2 月 23 日)

(この村の情報に関しては、一部において著しく信憑性にかけるものがあった)

1 村長の身上等

A 氏名年齢等

氏名:趙老三 、年齢:50 歳、教育:なし(読み書きはできない)

B 村長就任の経緯

郷長が任命

2 熊吊岩村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数:	57 戸
人口:	400 人以上
民族構成:	すべてコーカン族

B 町との関係

徒歩で、大水塘まで 2.5 時間、ラオカイまで 3 時間、中国側の砂糖工場がある町南山まで 3 時間。

山の野草や薬草類を取ってもって行き、米を買いに行く。トウモロコシを買うこともある。

病気の際には、大水塘かラオカイに行く。

C 耕地・作物(村内)

韃靼ソバ:1 ドンで 20 ドンの収穫、トウモロコシ:肥料を入れて 1 ドンで 30 ドンの収穫(寒過ぎて収量が少ない)、在来ソバ:1 ドンで 20 ドンの収穫(韃靼ソバと同等)

日本ソバは 1 ドンで 5〜6 ドン。

トウモロコシには尿素を 4〜5 袋を投入。貧しい家は 0 袋から 1〜2 袋。

3 学校・健康状態・水供給等

A 学校

中国から先生を呼んでいる:2,800 元/年(去年は 3,000 元/年と食料の現物)。

学費:1 年生が 160 元/年で学年が上がると値段も上がり 6 年生が 200 元/年(ここ 3 年間変化なし)

通学する生徒は一昨年の 50 数名から、去年 32 名、今年 24 名と減り続けている。

B 健康状態

特に変化は無いが、ミャンマー政府が予防接種をしに来、村長は 3 回注射を打たれた。

C 水供給施設

副村長と協議し、水源が遠いので、パイプによる水供給を計画中。パイプの購入費が無い。6m のパイプが 250 本必要。現在は、徒歩で 30 分程度。

4 生活必需品等の入手

A 食料自給状況

通常は、5〜6 か月分の自給が出来、少ないところは 4 か月分ぐらい。自給できている家は無い。去年はトウモロコシの収量も少なく、苦しかった。米(1.6 元/kg)やトウモロコシ(1.08 元/kg)、塩(1 袋 50 元/年)を買う

B 収入

どの家もサトウキビ刈りや薪作りの賃金労働に出た。サトウキビは歩合制:20 本 1 束で 0.5 元。1 日 10 束程度なので 5 元/日程度の収入。薪作りはご飯なしで 1 日 5 元。

5 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

10 ムー栽培しており、5〜10 ヴィスの収穫(雨の影響が大きかった)。混合肥料を 14〜15 袋、尿素を 2〜3 袋投入して

いた。

B 全般的変化

トウモロコシに対する肥料の投入量が減っている。

C その他

去年は、ケシの監視のミャンマー軍がラバを徴用し、飼い方が悪かったので村長のラバ 2 頭が死んだ。賠償が無かったので、各家庭が金を出して 1,000 元が村長に渡された。

6 個人の生活状況

A 農耕の状況

人の田の仕事を手伝っており、100 ドンの籾米をもらえる。トウモロコシが、700～800 ドンの収穫(製粉後は 400 ドン)。ソバ 10 ドン。

B 家族及び穀物消費等

大人 4 人・子供 7 人の 11 人家族で、穀類の消費は 5kg/日(ソバのみの場合の消費量も計算したが、ほぼこれを裏付けるものであった。ソバ 10 ドンで 7～8 日食べられる。殻付ソバの歩留まりは重量で 5～6 割)。食べるのはトウモロコシ、ソバ、米の順。豆類も食べる。芭蕉の仮茎とかイモ類は食べていない。

C 支出

照明用ディーゼルは 1 瓶で 10 日余り:3 本 x 3.5～4 元/月(一昨年は 2 元だった)。

7 日本ソバの栽培

A 村の状況

日本ソバの前は豆類を作っていた。日本ソバは 4～5 年前からやっており、当初は 2～3 袋や 4～5 袋といった少ない量であった。買い取ってくれるのならば、これからも作っていくつもり。買取が前提。講習会については、通知も無かった。クルミとかは NGO が説明に来たが、ソバは無い。

種はラバで大水塘まで取りに行き、買取の際も大水塘までもって行く。

ここでは全員が栽培に携わっており、来た種はみんなに配っている。ただし、ソバを撒く土地の余裕の無い人は撒かなかった。また収穫物は、買い取ってもらった方がたくさんのトウモロコシに替えられるので、家に残さないで買い取ってもらっている。

4 袋播種して 6 袋の収穫だった。肥料の配給を受けなかったので施肥をしなかった。

B 肥料が配給されなかった点

これに関し村長の説明では、ミャンマー政府の配布したエンドウマメとソラマメの種子の代金の支払い義務があり、ソバ用の配給肥料がその代金の支払いと相殺されたため、受け取れなかったとのこと。

このため同日、大水塘郷長を再度訪問し説明を受けた。

その結果、ここの村人はエンドウマメとソラマメの種子を受け取ったにもかかわらず、それを栽培に使用しなかった。その上、日本ソバについても、村からの強い要望に沿ってわざわざ種子の分配量を増やしたにもかかわらず、播種をちゃんと行わなわずそのまま食べたり処分したりした家もあったことが判明したため、懲罰的措置として肥料によるマメ類の種子代金の相殺を行った。

また、ファシリテータートレーニングについても 2 人出席するように指示したのに、誰も出席してない。

8 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	3.5～4 元 / 本	2 元 / 本
B 米:	1.6 元 / kg	
C トウモロコシ:	1.08 元 / kg	

聞取り調査 15(場所:嘎保寨村)

西山区大水塘郷嘎保寨村村長聞取り
(2004 年 2 月 25 日)

1 村長の身上等

A 氏名年齢等

氏名:リーシャオシャオ 、年齢:55 歳ぐらい、教育:なし(読み書きはできない)

B 村長就任の経緯等

村人に選ばれた。15 歳で彭主席について山に入り、34 歳のときに下りてきて村長に選ばれた。
前の村長は 40 年間村長をやっており、村長会議で片道 2 時間の道を歩いていくのが負担になっていた。

2 嘎保寨村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数:	27 戸
人口:	200 人前後(女性が少し多い)
民族構成:	すべてコーカン族

B 識字率

2〜3 人読書きが出来る。

C 町との関係

徒歩で、大水塘まで 3 時間(病人を担いでいくと 6 時間)、ラオカイは、お金があればトラジを持っている人に頼む(大水塘まで 2.5 時間、5 元)。大水塘からラオカイは車で 10 元(道がよくなって安くなった。1.5 時間)
茶や薬草の根を取ってもって行き、塩やタバコを買いに行く。
薬と病院も、大水塘かラオカイに行く。

D 耕地・作物(村内)

水稲(7 戸のみで小面積、収量は 20 倍)、陸稲(小面積で収量は 10〜20 倍、雑草に負けるので除草が大変)、大部分がトウモロコシ(収量は 5〜10 倍)。＊＊この部分の数字は、後述の個人の収量と矛盾があり、余り当てにはならない。
日本ソバは収量が 2〜3 倍。ほかに茶とクルミが各戸 1〜2 本

3 学校・水供給

A 学校

学校は地続きの隣村にある。歩いて 5 分。

B 水供給施設

山の脇の湧水を家に直接引いている。通年使用可能。

4 生活必需品等の入手

A 食料自給状況

昨年、アドラーによるフードフォーワークが実施された。配給米は 190 袋(1 袋 50kg)。当初は 7 日で 1 袋の予定だったが、実際には 20 日で 1 袋ぐらいになった。この村から 30〜40 人が参加。近隣のニャオカン村からも 11 人参加。ニャオカン村からの参加があったので、割り当てが減った。村長の家は、家族の若者 3 人が参加し、9 袋。
自給が完全に出来ているのは 4 戸ぐらい。
1 軒生活に困っている家があるので、みんなで助けている。

B 収入

山の草の採集は 3 元/日ぐらいで、賃金労働はこの辺りでは余り無いが、4〜5 元/日程度。現在、村人で出稼ぎに行く人はいないが、ワ地区に行く計画はあった。この計画は、ワ地区に雪が降ったという情報があり、雪が降ると不作なので中止した。

5 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

各戸ともケシ栽培をやっていたが、収穫は 1〜2 ヴィス程度。それほどの稼ぎではなかった。化学肥料は買えなかった

ので施肥せず、堆厩肥のみを使用。

B 全般的変化

ケシの栽培をしていた当時もそれほど高収入というわけではなかったので、大きな変化は無い。ただし、小さな病気はちょっと増えたかな、という印象はある。

6 個人の生活状況

A 農耕の状況

水稲:6～7 ドン播種し、収穫は 300 ドン。在来品種を使用し、肥料は投入(ミャンマーの新品種は収量が低いので使わないとのこと)。トウモロコシは 2 ドン播種し、80 ドンの収穫(肥料投入は少量)。
ソバは、4 袋は種子 17～18 袋(344kg = 3.4 倍:実績による)。
茶は 1 ヴィス 2～6 元で 1,000 元の売上。クルミの木は 3 本あるが、まだ売るほどは実らない(100 個で 10 元)。

B 家畜

水牛 1 頭(3,000 元)、牛 2 頭(運送用だが困ったら売る)、豚 10 頭(売却・食用両方、1 ヴィス 18～30 元、去年 7 月の売却価格は 700～800 元)、鶏 80 羽強(自家消費用)。

C 家族及び穀物消費等

大人 7 人・子供 2 人・孫(幼児)沢山の 9 人+αの家族で、穀類の消費は 10kg/日
芭蕉の仮茎とかイモ類は食べていない。

D 支出

塩を年間1～2袋。タバコを年500～600元。被服費は年間1,000～2,000元。薬代は通常で年間2,000～3,000元で、病気になると 10,000 元を超える出費となる。交際費等は年間で、3,000～4,000 元。
また肥料は、400 元/年(3 元肥料 3 袋、尿素 4 袋)。

E 農具

基本的農具、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ

- 犂:毎年 2～3 個購入、15 元/個
- 鍬:毎年 10 個購入、10 元/個
- 山刀:毎年 3～4 個購入、12～14 元/個
- 鉈:毎年 10 個購入(余り丈夫でない)、15 元/個
- 鎌:1～2 年に 2～3 個購入(5～6 個所有)、7～8 元/個
- 斧:4～5 個所有、18～20 元/個

F 家・瓦屋根

屋根瓦は量をまとめ、中国から職人を呼び、地元の土を使って焼く。瓦自体は除草等の手入れをすれば 100 年保つ。所有する建物全部の分で、30,000 元かかった。
家は、築 30 年で 20,000 元以上だった。20 年前の大地震でもびくともしていない。
プラスチック椅子 25 元/個。木の椅子 7・8～10 元、横長の椅子 4～5 元、ベッド 30 元。

7 日本ソバの栽培

肥料の運搬費として 15 元負担している(プロジェクトとしては 5 元のみを課金)。収穫物をマンローまでラバで運んでいるが、ラバの借上げ費が 1 頭 10 元で自分だけで 80 元の出費となった。道も出来ているので、この村まで集荷に来て欲しい。
研修に関してはマンロー郷の研修会に村長が 1 人参加。ソバの栽培方法を聞いてきて、みんなに伝えたが、村長はその内容をもう忘れている。

8 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	4.5 元 / 本
B 米:	1.8 元 / kg
C トウモロコシ:	0.9 元 / kg
D 塩:	68 元 / 袋(50kg)

聞取り調査 16(場所:コウンカ(Kaungkha))

コウンカ村(クッカイ:Kutkai タウンシップ) 元村長聞取り
(2004 年 2 月 28 日)

1 元村長の身上等

A 氏名年齢等

氏名:クンロム、年齢:61 歳、民族:カチン人、宗教:バプティスト、教育:ミャンマー学校は小学校 3 年間(読むのは問題ないが書くのがちょっと大変)・カチン学校は小学校 4 年間(カチン語は読み書きできる)

B 村長就任の経緯

村民の推薦で、ミャンマー政府の依頼を受けた。KDA からも同時に依頼された。

2 コウンカ村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数: 500 戸
人口: 3,000 人以上
民族構成: カチンが大半で、ミャンマー政府職員・関係者、パラウンが 20 戸で KDA と農民、帰化した中国人 30 戸で KDA と農民

B 町との関係

クッカイまでバスで 30 分、料金 700 チャット[1]。

コウンカはこの地区の中心地で市が立つ。一番遠いところから雨期は 1～1・5 日、乾期はトラジが使える。

C 耕地・作物

トウモロコシ:1 エーカー当り 1～1.5/8 バスケット(2.32kg 弱～3.51kg 弱、1 バスケット=18.72kg)播種し、20 バスケット(374.4kg)収穫を見込める(収量 106～160 倍)。15 フィート間隔で碁盤の目のように、2 粒ずつ播種する。施肥は厩肥のみを用いる。以前は化学肥料も少量使用していた。

陸稲:1 エーカー当り 2 バスケット(1 バスケット=15.72 kg)播種し 40～50(629～786 kg)バスケットの収穫が見込める(収量 20～25 倍)。

日本ソバ(個人の実績): 1 エーカー当り 1 袋(25 kg)播種し 17 袋の収穫が見込める(収量 17 倍)。肥料を撒いて種を撒く。追肥はなし。

在来ソバ:1 エーカー当り 1 パック(1.5 バスケット:23.6 kg)播種し 170 パック(401 kg)の収穫が見込める(収量 170 倍)。肥料を撒いて種を撒く。追肥はなし。値段は 1 パック 3,600 チャット。

3 学校・保健医療

A 学校

ミャンマーの高校が 1 つと小学校が 1 つ。

B 医療設備

ミャンマー政府の病院と KDA の医療補助員がいる病院がある。

4 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化(KDA 幹部の話も含む)

A 以前の状況

ケシ栽培を 3 エーカーの土地で行い 5～6 ヴィスの収穫。ケシの栽培地は遠くて不便なところなので、今は使っていない。

B 全般的変化

肥料を投入できなくなったので、陸稲の収穫が自給分のみとなった。また、ケシ栽培の収益を医療費や教育費に充てていたので、その分苦しくなっている。

5 日に 1 度の市で今まで豚が 5 頭と牛 2 頭が売りさばかれていたのに、今では豚 2 頭投資 1 頭でも売れ残るような状態になっている。

---

1 チャットと元の交換レートは 1 元≒2,350 チャット (1.7 元=4,000 チャット)

5個人の生活状況

A 農耕の状況

家畜の飼料用トウモロコシ 15 バスケット(1 エーカー)、自給用陸稲 200 バスケット(5 エーカー)。

B 家畜

耕作と貸し出し用の水牛 10 頭(最近 12 頭死んだ後の数字)、売却用の牛 40 頭、売却と自家消費用の豚 4 頭、鶏は最近全部死んだ。

水牛は自家繁殖で、賃貸料は 1 頭につき 15 バスケットの籾米で 2〜3 頭を貸している。牛は 1 頭 200,000 チャットで、去年は 2 頭を売却。豚は、大きいので 1 頭 90,000〜100,000 チャット(1 ヴィス 2,000〜2,500 チャット)。

牛の糞は 1 バッグ 200 チャットで 300〜400 バッグを販売。

C 家族及び穀物消費等

大人 2 人・子供 6 人家族で、穀類の消費は 3 ピー(6kg)/日。

D 支出

教育費:大学生 2 人 400,000 チャット/年 x 2・高校生 2 人 100,000 チャット/年 x 2・小学生 50,000 チャット/年、塩:4〜5 袋(25kg 入)/年、4,000〜5,000 チャット/袋、被服費:1 人当り 50,000 チャット/年、蚊帳(3〜4 年保つ)2,000〜2,500 チャット、医療費は通常 50,000 チャット/年(ひどければ 100,000 チャット以上かかる)、交際費等 30,000〜40,000 チャット/年

E 農具

基本的農具、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ

- 犂:毎年 2〜3 個購入、2,000 チャット/個
- 鍬:1〜2 年 4 個購入、1,500 チャット/個
- 山刀:毎年 3〜5 個購入、2,000 チャット/個
- 鎌:3〜4 年で 5〜6 個購入、3,000 チャット/個
- 斧:3〜4 年で 1 個所有、2,000 チャット/個

F 家

自宅

6ソバの栽培(KDA 幹部の話)

日本ソバの買取価格について、32,000 チャット/エーカー(8 倍の収穫量の買取)では足りない。どんな作物でも 20,000〜25,000 の費用がかかる(内訳:耕地の準備に 10,000 チャット、耕起に 5,000〜6,000 チャット、しゅうかっくに 500 チャット x 12 人、播種に 500 チャット x 1〜2 人)。したがって実収入が 7,000〜12,000 チャットで満足せざるを得ない。

しかし、この程度でも満足すべきかとも思う。最低線は 30,000 チャットぐらいかもしれない。

コウンカでは、500 戸のうち 20 戸が 1〜2 エーカーの面積で参加し、KDA の農場で 40 エーカーの栽培を行った。この地区全体では 320 エーカー。4,000 チャット/バスケット(1 バスケット=21.38kg)で 11,500,000 チャット(2,875 バスケット:約 9 倍の収量)の収入となった。

しかし、農民に対しては 4,000 チャットだと「日本ソバ 1 バスケット=米 1 バスケット」の約束が守れず、心苦しかった。

7基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	2,000 チャット / ガロン
B 米:	55,000 / 35kg
C トウモロコシ:	米の半額

聞取り調査 17(場所:ターモニエ(Tarmonye))

ターモニエ(サブタウンシップ)集団聞取り
(2004 年 2 月 29 日)

1 参加者

U Htin Kyaw (Chairman, TPDC)
U Kyaw Myint (People Militia)
U win Maung (People Militia)
U Khan ai (Kachin farmer)
U Twan Kha Yi (Chinese farmer)
U Lao Wan (Chinese farmer)

2 ターモニエの一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

行政村数:		4 行政村	(207 カ村)
		中心街	全域
世帯数:		2,122 戸	8,371 戸
人口:		14,767 人(男 7,374、女 7,393)	72,571 人
民族構成:	中国	54,595 人	
	ミャンマー	261 人	
	カチン	8,465 人	
	パラウン	9,250 人	

B 町との関係

一般の人はターモニエの町で用事を済ませている。一番遠い人は徒歩で 4～5 時間かかる。
商売人はクッカイ、ラシオ、ムセといった大きな町に行く。

C 耕地・作物

トウモロコシ:6,300 エーカー、1 エーカー当り 8 ピー(12.5kg)播種し 40～50 バスケット(749kg～936k、1 バスケット=18.72kg)収穫を見込める(収量 60～75 倍)品種と 1 エーカー当り 4 ピー(6.24kg)播種し 35 バスケット(655kg)収穫を見込める(収量 105 倍)在来品種がある。

陸稲:6,000 エーカーで、1 エーカー当り 1 バスケット(15.72kg)播種し 25～30 バスケット(393kg～472k)の収穫が見込める(収量 25～30 倍)。

水稲:9,095 エーカー、1 エーカー当り 2.35 バスケット(37kg)播種し 60 バスケット(943kg)の収穫が見込める(収量 25 倍)。

日本ソバ(個人の実績): 1 エーカー当り 1 袋(25 kg)播種し、8 袋から最高で 35～40 袋の収穫。堆厩肥を使うと高収量に結びつくとのこと。

在来ソバ:1 エーカー当り 1 バスケット播種し 15 バスケットの収穫が見込める(収量 15 倍)。

その他:はじめたばかりの麦、マメ類、ジャガイモ、お茶、オレンジを栽培。お茶は地元で紅茶工場も作っており、高品質とのこと。アブラナも栽培しておりよい成績を上げているが、市場が無い。麦、マメ類、ジャガイモ、アブラナは水稲の裏作としている。

D 貧しい人の生活の糧

豚や牛、水牛を育てる。そのほか、野菜を栽培して売る、茶摘の仕事(1 ヴィスで 100 チャット)などがある。

3 学校・保健医療・電気

A 学校

ミャンマーの高校と中学が 1 つずつ、小学校が 5 つ。貧しい人たちの学費は免除している。

B 医療設備

ミャンマー政府の大きな病院がある。

C 電気

近くの水力発電所から通年で 24 時間配電を受けている。

4公共の住民活動等

A 生活環境の改善等

土曜日の朝、住民みんなで町の掃除をしている。自然発生的だが、現在はTPDCが音頭を取っている。

5生活必需品等の入手

A 食料品

米中心だが、貧しい場合は米とトウモロコシ、米とカボチャ、米とアボガドというような組み合わせで食べている。

6ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

ケシ栽培は4年前にやめた。収量は3ヴィス/エーカーで、1戸当り3エーカーぐらい栽培していた。150,000チャット/ヴィスで、コストが半分ぐらいかかった。

B 全般的変化

75%の耕地はそのまま放ってあり、一部をトウモロコシやマメ類の栽培に使っている。放ってある土地は、高地で寒く、風も強いので一般的作物には不向き。

7個人の生活状況

A 家族及び穀物消費等

大人7人・子供2人家族で、穀類の消費は40ピー(82kg)/月(2.7 kg/日)。
大人12人家族で、穀類の消費は60ピー(123kg)/月(4.1 kg/日)。
大人3人・子供3人家族で、穀類の消費は25～28ピー(51～57.4kg)/月(1.7～1.9 kg/日)。

B 支出

教育費:大学生2人400,000チャット/年 x 2・高校生2人100,000チャット/年 x 2・小学生50,000チャット/年、塩:4～5袋(25kg入)/年、4,000～5,000チャット/袋、被服費:1人当り50,000チャット/年、蚊帳(3～4年保つ)2,000～2,500 チャット、医療費は通常 50,000 チャット/年(ひどければ 100,000 チャット以上かかる)、交際費等 30,000～40,000チャット/年

C 農具

基本的農具、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の6つ

- 犂:毎年2～3個購入、2,000チャット/個
- 鍬:1～2年4個購入、1,500チャット/個
- 山刀:毎年3～5個購入、2,000チャット/個
- 鎌:3～4年で5～6個購入、3,000チャット/個
- 斧:3～4年で1個所有、2,000チャット/個

D 家

自宅

8ソバの栽培

買取制限の影響で、一族で 300 バスケット(6,384kg)の在庫を抱えているところもあり、調査で訪問した際には、買取を求める農民が集まっていた。

また、韃靼ソバは粉にして砂糖等を混ぜてお菓子にして食べ、普通のソバは寒天状にして食べる。

9基準価格

A 米: 500チャット / ピー

聞取り調査 18(場所:マイファン(モンポウ地区))

マイファン村村長聞取り
(2004年3月1日)

1村長の身上

氏名:La Mai Gan、年齢:58歳、民族:カチン人、教育:中学卒(読み書き可)

2マイファン村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数: 86戸
人口: 500人以上
民族構成: カチン人のみ

B 町との関係

モンポウの隣接地。モンポウの5日に1度の市で通常の売買は済ませる。量が多い時にはチューコー=パンサイやムセに行く。

C 耕地・作物

水稲:中国の耕収量種を使用し、1エーカー当り2バスケット(31.44kg、1バスケット=15.72kg)播種し、60〜70バスケット(943〜1,100kg)収穫を見込める(収量30〜35倍)。ケシを栽培していたころは肥料を1.5倍投入しており、その場合には同じ播種量で、100〜120バスケットの収穫が見込めた。

トウモロコシ:101号種を使用。1エーカー当り2ピー(3.12kg、1ピー=1.56kg)播種し(点播)、20〜30バスケット(374〜562kg、1バスケット=18.72kg)収穫を見込める(収量20〜25倍)。ケシ栽培時は、40〜50バスケット(749〜936kg、収量20〜25倍)

陸稲:1エーカー当り5ピー(6.55kg、1ピー=1.31kg)播種し10バスケット(157 kg)の収穫が見込める(収量24倍)。ケシ栽培時は、20バスケット(314 kg、収量48倍)。

日本ソバ(個人の実績): 1エーカー当り1袋(25 kg)播種し4バスケット(85kg、1バスケット=21.28 kgの収穫が見込める(収量1.7倍)。

そのほか、茶の栽培も盛ん。

D 家畜

水牛60頭(役牛)、牛100頭(役牛)、豚120頭(販売用と自家消費)、鶏たくさん(販売用と自家消費)、合鴨60羽(自家消費用)

3学校・保健医療・水供給等

A 学校

国境省の寄付で出来た小学校がある。就学率はほぼ100%で150人が通学。5人いる先生のうち1人は村で雇っている。

B 医療設備

隣接するモンポウにミャンマー政府の病院がある。

C 水供給

大きなため池があり、問題は無い。ため池の建設は、茶工場の社長が半分費用を負担、残りを村民が負担した。

D 電気

電気は、中国からの電気が来ている。

4公共の住民活動等

A 村の集会

2か月に1度開催し、道路整備などの開発関係や学校、水供給などについて決める。道路整備の場合には、1家族1人の労働者を出すことになっている。

5自給状況等

86 戸中 60 戸が自給可能。茶摘、オイルフルーツの採集などで現金を得ることが出来る。

6 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

半分ぐらいの家がケシの栽培を行っていた。1 エーカーで 1 ヴィスぐらいの収穫量で、3～4 戸が大手で 3～4 ヴィス、少ない家は 0.5 ヴィス、通常は 1 ヴィスぐらいの収穫だった。

B 全般的変化

肥料の投入量が減っている。

村長は、早くからケシ栽培に見切りをつけ、水田に力を入れていたので影響は少ない。

7 個人の生活状況

A 農耕の状況

10 エーカーを所有。内訳は、水田が 3 エーカー、トウモロコシは少し、ソバが 1.5 エーカー、茶 4 エーカー、陸稲 1 エーカー。収量は 2 参照。茶の収穫は 120 ヴィス/年で、茶摘をしない期間は年間で 3 ヶ月だけ。

B 家畜

水牛 2 頭、牛 2 頭、豚 3 頭、鶏 15 羽、鴨 3 羽。

C 家族及び穀物消費等

大人 6 人・子供 3 人家族で、穀類の消費は 2 ピー(4kg)/日。

D 家

自宅

8 ソバの栽培

26 戸が参加し 1 戸当り 1～3 袋で、合計 61 袋を播種。トウモロコシ(平地で 5 月末、高地で 4 月末に播種し、収穫は双方共に 11 月から 12 月)の後作としたところは、播種時期が遅すぎて失敗している。追肥をした農家は収穫量が多くなっている。

村長の場合、2 袋を 1.5 エーカーに播種しており、ちょっと面積が狭すぎたと感じている。全体の 75%が成功している。

参加者の決定に当っては、参加者を募り、その後で調整し割り振った。

講習会は当地で播種時と収穫時に開催され、14 カ村から 30～40 人参加した。日本人も来ている。

9 基準価格(現在と 5 年前)

A ディーゼル油(照明用):	2,000 チャット / ガロン
B 米:	500 チャット / ピー
C 米:	300 チャット / ピー
D 米:	200 チャット / ピー
E トウモロコシ 101 種:	250 チャット / ピー
F トウモロコシ在来種:	200 チャット / ピー

聞取り調査 19(場所:モーナイバー(モンポウ地区))

モーナイバー村(漢民族の村)村人聞取り
(2004年3月1日)

1 村人の身上

氏名:チョンファーシン、年齢:34歳、民族:漢民族、教育:なし(自分の名のみ書ける)

2 モーナイバー村の一般的状況

A 耕地・作物

水田は8家族のみが所有している。しかし、灌漑水が少ないので、徐々にしか作付けが出来ない。陸稲は、5月播種の9月収穫。6月～8月にかけて播種し、田植えが7月から10月、収穫が10月以降になる。トウモロコシは、4～5月播種の8～9月収穫(収穫まで5ヶ月間)。
日本ソバは、トウモロコシの収穫後に播種する者が多い(8月播種の10月収穫)。トウモロコシの裏作としてエンドウマメ・ソラマメを栽培している。日本ソバの栽培を始める前は、在来種のソバも栽培していた。

3 学校・保健医療・水供給

A 学校

小学校があり、ボランティアの先生がいて、ミャンマー語と英語の教育をしている。費用は7,000チャット/年と米8ピー/月。モンポウの小学校だと12,000チャット/年。

生徒は11人で2～3人は他の村から来ている。

B 医療設備

医療設備が無いので、病気の時はモンポウかチューコー=パンサイに行く。モンポウまで徒歩で2.5時間、チューコー=パンサイは3時間。モンポウーチューコー=パンサイをバスが通っているがバス道まで歩いて1時間。病気がひどいときにはムセまで行く。

4 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

全部の家がケシの生産をしていたが、生産量は少ない。1家族1～1.5ヴィスぐらいの生産量だったが、0.1ヴィスだったりまったく収穫が無いこともあった。
また他地域でのケシ農園での作業は、労賃がアヘンで支払われ、所持が見つかるとつかまるので、村長が禁止していた。

5 個人の生活状況

A 農耕の状況

トウモロコシを2ピー(1ピー=1.56kg)播種し、2～3バスケット(1バスケット=15.6kg:1バスケット=10ピー、虫害があった:通常は12バスケット)。水田を借り水稲を30バスケット(393kg)の収穫(このうち3バスケットを耕起代として納めなくてはならない)。
日本ソバは3袋(75kg)で、15,000チャットの収入(79.8kg+75kgの収穫)。
エンドウマメは病気のため10ピー播種し10ピーの収穫(通常は15バスケット、15倍の収量)。ソラマメは5ピー播種し30ピーの収穫。

B 家畜

農耕・運搬用の牛を4頭、豚を4頭(去年1頭売却35,000チャット)、鶏10羽(去年は10羽売却1羽1,500～2,000チャット)。
また、村では牛35頭と12頭ぐらいの水牛を集中飼育している。

C 家族及び穀物消費等

大人2人・子供3人家族で、2ピー(4.1kg)/日。

D 収入

トウモロコシ、マメ、豚、鶏を売って米を買う。モンポウ近辺の豊かな農家で農作業や薪作りをする。ほかに茶摘(3～4月)。ミャンマー政府が地域の住民自衛武装組織のリーダーを通じて、薬草取りや勝手な薪作りは村長が禁止している(村内利用分はよい)。

E 農具

基本的農具、山刀・鉈・犂・鍬・鎌・斧の 6 つ

- 犂:毎年 2〜3 個購入、3,000 チャット/個
- 鍬:毎年 1〜2 個購入、2,000 チャット/個
- 山刀:毎年 1 個購入、2,000 チャット/個
- 小刀:2〜3 年で 1 個購入、1,500〜2,000 チャット/個
- 鎌:2〜3 年で 1〜2 個購入、1,500 チャット/個
- 斧:2 年で 1 個、8,000 チャット/個
- 手鋤:2 年で 1 個、2,000 チャット/個

F 家

自宅

6ソバの栽培

ソバの栽培には、8 家族が参加。21 袋が 88 袋となった。肥料を倍使ったと思われるよい成績のところで、7 袋で 42 袋の収穫。しかし、3 袋で 2 袋の収穫という例もあり、合計 21 袋で 88 袋の買取に終わっている。
この村では、ソバの醸造法を知っているものがおり、もし来年種をくれなくても自分の持っている 2 袋の種で作付けを行いアルコールを作りたいとのことだった。

聞取り調査 20(場所:Paungsai(Mongkoe 地区))

パラウン人農民聞取り
(2004 年 3 月 2 日)

1 村人の身上

氏名:Ta Nan、年齢:90 歳、民族:パラウン人、教育:シャンの僧の教える学校に 8 年間(シャン語の読み書きが出来る)

2 ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

以前はケシの栽培をしていたが、収穫は 0.5 ヴィス程度。肥料をやれなかったことが原因と考えている。また、自分たちの畑の作業をする前に人の畑で働いて、その作業が終わってから自分たちの畑の作業をやっていた。

3 個人の生活状況

A 農耕の状況

トウモロコシ:5 ピー(7.8 kg、1 ピー=1.56kg)播種し、20 ピー(31.2kg)の収穫だった(少雨のため不作だった。よい時には 50 ピーの収穫がある)。
陸稲:20 ピー(26 kg、1 ピー=1.31kg)播種し、10 バスケット(157kg、収量 6 倍)の収穫だった(少雨のため不作だった。よい時には 50 バスケットの収穫がある)。
なお、耕地は 1 時間離れたところにある。

B 家畜・家

自分の農耕用の水牛 4 頭(大 2 頭小 2 頭)、豚小 2 頭、鶏 20 羽。家は自宅

C 家族及び穀物消費等

大人 3 人・子供 2 人家族で、米の消費は 1 ピー(2kg)/日。チューコー=パウンサイの市場で米を購入。足りないときは、何か混ぜ物をする。

D 収入

農作業や薪作り作業。嫁は小さい子がいるので薬草の根や茸、筍の採集にいけない。

E 医薬品

看護婦に聞いて、市場で薬を買っている。

4 ソバの栽培

2001 年、2002 年のソバ栽培の時には、内乱があり、息子がミャンマー政府に協力していて、栽培が出来なかった。

聞取り調査 21(場所:Paungsai(Mongkoe 地区))

ポゥンサイ村村長聞取り
(2004 年 3 月 2 日)

1 村長の身上等

A 氏名年齢等

氏名:宝福寛、年齢:46 歳、民族:漢民族、教育:小学校 2 年間(ある程度読める).

B 村長就任の経緯

村人に選ばれ、ミャンマー政府から任命された。

2 ポゥンサイ村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数: 162 戸
人口: 1,400 人以上(3 年前は 1,300 人強だった、男女比率はほぼ同じ)
民族構成: 漢民族 60%、パラウン人 15%、カチン人 25%(住民武装組織の長はカチン人)

B 町との関係

ポゥンサイで 5 日に 1 度の市が開かれる。量の多い買い物はモンコーに行く。

C 耕地・作物

トウモロコシ: 1 ムー当り 1 シェン(0.5 ピー=0.78kg)播種し、15 バスケット(280kg、1 バスケット 18.72 kg)収穫を見込める(収量 360 倍)。堆厩肥と化学肥料の両方を用いている。

陸稲: 1 エーカー当り 1 バスケット(15.72kg)播種し、25 バスケット(393kg)収穫を見込める(収量 25 倍)。堆厩肥と化学肥料の両方を用いている。

日本ソバ: 1 エーカー当り 1 袋(25kg)播種し、8〜10 バスケット(170〜213 kg、1 バスケット=21.28 kg、収量 6.8〜8.5 倍)の水準からよい場合には 25 バスケット(532kg、収量 21.3 倍)の収穫を見込める。追加の肥料をやると収量が増える。

在来ソバ: 1 エーカー当り 20 ピー(26.6kg、1 ピー=1.33 kg)播種し、200 ピー(266kg、収量 10 倍)の水準からよい場合には 25 バスケット(532kg、収量 21.3 倍)の収穫を見込める。それほどの量の施肥をすることは出来ない。多過ぎると倒れてしまう。

D 家畜

農耕用の水牛 70 頭、輸送・農耕用の牛 60 頭(切羽詰ったばあには売却する)、運搬用のロバ 70 頭、販売・自家消費用の豚 200 頭以上(大きいので 800〜900 元、小さいのが 100 元)、鶏は病死が多く少ない

3 学校・保健医療・水供給等

A 学校

小学校が 1 つある。中国人の先生 6 人とミャンマー政府派遣の先生 4 人。ミャンマーの方は来年はじめて 6 年生が誕生する。中国人の先生は 1 人 1,200 元/半年支払っている。ミャンマー政府派遣の先生には 1 人 90 元/月支払っていたが、今は生徒が 40 元/年支払ったものを分けている。

中国学校には 136 人が通っていて、このうち 60 人がミャンマー語も勉強している。ミャンマー学校には 100 人通っていてそのほとんどがカチン人。パラウン人はほとんど来ない(学費を免除し、食事も出すといっているにもかかわらず)。生徒数に関しては、今年はもっと減るものと予想している。

学校の建物は 3 つあり、そのうち 2 つは楊一族という台湾と中国で稼いで帰ってきた一家がいて半分を寄付してくれ、残りを村人が負担した。残りの 1 つは現在ラシオに済んでいる住民自衛武装組織のリーダーが寄付した。

B 医療設備

ミャンマー政府による医療補助員(男 2 人女 2 人)のいるメディカルセンターがあり、村人にも治療法を知っている物が 2 名いる。1 人は中国の昆明で 2 年間学んでおり、1 人は動物の治療が主体だが、本等で独学。

C 水供給

漢民族地域に 3 つ、カチン人地域に 3 つ、パラウン人地域に 1 つの池があり、7 つの湧水と 1 つの井戸(ミャンマー政府が運営)を使っており、通年でほぼ問題が無い。

4ケシ栽培が無くなったことによる影響・変化

A 以前の状況

2エーカーで7～8ヴィスの収穫があった。

B 全般的変化

ケシ畑で遠くないところは、ほとんどトウモロコシが栽培されている。遠いところは放置されている。

5個人の生活状況

A 農耕の状況

トウモロコシを2エーカー栽培し収穫80バスケット、陸稲を1エーカー栽培し収穫30バスケット、日本ソバを自主栽培で10ピー播種し収穫4バスケット、在来ソバを1エーカー栽培し200ピーの収穫。

今年、自主栽培した日本そばを見せてもらったが、かなり品質が高かく、形状も日本の物とほとんど変わらない状態を保っていた。

B 家畜

水牛2頭、牛2頭、豚3頭、鶏15羽、鴨3羽。

C 家族及び穀物消費等

大人3人・子供3人家族で、穀類の消費は1ピー(2kg)/日。

D 家

自宅

E 支出

被服費7,000～8,000元、医療費600元(ひどいときには1,000元以上)、交際費等(2,000元)

6ソバの栽培

日本ソバ栽培には30家族が参加。漢民族のみ今年も自主栽培を行った。プロジェクト実施時から、堆厩肥にTスーパー1 袋/エーカーを追加投入している者が多い。ソバ栽培プロジェクト当時のパラウン人やカチン人の成績は悪かった。その理由は、追加肥料が買えなかったためである。

今年は自分たちの持っていた種を15 袋播種し、収穫量は不明。市に来る中国商人に脱穀した状態で販売していて、2003年は4元/ピー、2002年は5元/ピーだった。在来種のそばの値段は殻付で2元/ピー。(日本ソバは脱穀すると半分ぐらいになるので、値段は同等になる。日本ソバの粒が大きいので、このような扱いになったものと推定される)

中国人が買付けに来るので、国境省が買取るかどうかは問題ではない。

食べ方はソバを寒天状にした後、トコロテン状に掻き取って味をつけて食べるのが一般的。韃靼ソバであれば、そば焼酎も作れる。

作付けパターンとしては、マメの後にソバの作付け、というものがある。

講習会は、ここで開催されたので、2～3 回参加している。プロジェクトの参加に関しては、農民の意見を重視している。

聞取り調査 22(場所:Phaungsay(ナムカムタウンシップ))

パウンセイ村集団聞取り
(2004 年 3 月 2 日)

1 出席者

李永萬(顧問)、李永平(治安部大隊長)、黄定安(パウンセイ部隊長)、張必嘉(医療補助員)、農民 3 名

2 パウンセイ村の一般的状況

A 人口・世帯数・村数等

世帯数:162 戸
人口: 1,400 人以上(3 年前は 1,300 人強だった、男女比率はほぼ同じ)
民族構成: 漢民族 60%、パラウン人 15%、カチン人 25%(住民武装組織の長はカチン人)

B 町との関係

ポウンサイで 5 日に 1 度の市が開かれる。10 マイル圏が住民が集まる範囲で、最長は徒歩で 3 時間かかっている。ナムカムには商売人のみが行っている。
85 年に古い道を作ったが、乾期でも車の通行が難しい道だったので 2002 年に乾期のみではあるが車の通行が可能な新しい道を作った。この道は 5 か月間のみ安全に通行可能で、3 か月間はまったく通行できない状態となる。

C 耕地・作物

ジャガイモ: 1 バスケット(1 バスケット=13 ヴィス=21.19 kg)の作付で 20 バスケット(424 kg)の収穫が見込める。堆厩肥を最初に入れて耕してから栽培する。

トウモロコシ: 5 ピー(7.8 kg、1 ピー=1.56 kg)で 240 ピー(370 kg)の収穫が見込める。飼料用・食用の両方。中国種と在来種の 2 種類があるが、中国種は実が成る時に直立しているため、穂に雨が入るのでここでは適していない。在来種は穂先が下がって実が熟するので、その問題が生じない。

韃靼ソバ:3 ピー(4 kg、1 ピー=1.33 kg)で 120 ピー(160 kg)の収穫が見込める。実りのころは鳥が食べたり実を採集して行ったりするので、見張りが必要。また、市場で売れないので、飼料用にしている。新規開拓地での収量が多い。肥料をやると背が高くなり過ぎて実が少なくなるので、切り開いた土地を焼いただけで栽培を行う。

このほか、ソラマメ、ニンニク、マスタード、コリアンダー、ラッキョウ等も栽培されている。

この村では、コーカン特別区の明徳村と同じように、山間部で作物の間に他の作物を作付したり、トウモロコシとジャガイモを 2~3 畝ずつ交互に栽培する、というようにかなり集約的農業を行っている。後述するように家畜が多いこともあり、堆厩肥をかなり多量に投入しているようで、利用している畑地は地味が豊かであった。

また、陸稲の作付試験を住民自衛武装組織のリーダーが音頭を取って実施しており、ある程度の目処が立っているようである。しかしながら、現時点では陸稲の作付けは行われていなかった。

このほか竹製品(箒や米用の竹筒)を作るための栽培も行われており、野生の竹の一種の筍は食用によい。日本ソバについては、後述する。

D 家畜

水牛 120 頭、輸送・食用とごく少量販売するための牛 400~500 頭、運搬用のロバ 400 頭、販売・自家消費用の豚 1,000 頭、販売もする鶏が沢山(2,000 チャット/ヴィス)、販売用のヤギが 4,000~5,000 頭(10,000 チャット/頭)

3 学校・保健医療・水供給・電気

学校は、小学校から高校までがある。
医療設備としては、ミャンマー政府による医療補助員(男 2 人女 2 人)のいるクリニックがある。
水供給については、湧き水や近くの清流を利用しており、問題が無い。
電気は、一部のみミニ水力発電の電気が使用可能。

4 自給状況等

食事は米が中心であるが、米とジャガイモ、米とトウモロコシ、米とマプコ:麻布菓(一番食糧事情が悪いとき)の組合せもある。家畜の量からもわかるように、今のところそれほど困っているようではなかった。
筍(1 ヴィス 100 チャット以上)、野菜、ジャガイモ、トウモロコシ、竹の箒や竹筒などを売って、何とか食べていっている状態とのこと。

5 ソバの栽培

ソバ栽培は、2 年間試験栽培を実施しているが、いずれも霜害のため失敗に終わっている。聞取りを行ったところ、畑地の集約度の高さと農民の思い込みから、播種時期が遅くなり過ぎていることが主な原因と推定された。

具体的には、トウモロコシの収穫前に間作の形にするという選択により、播種時期を早めることができるにもかかわらず「トウモロコシの実りの時期にそばを播種すると実りの妨げになるであろう」という、地区農民の思い込みから、播種がトウモロコシの収穫後に行われることとなり、霜害を避けることができないことが大きな原因と推測される。このほか、この地区が海抜 2,000m という、ソバ栽培の限界に近い高度にあるため、良好な生育が望み難い点も影響を及ぼしていると推定される。